

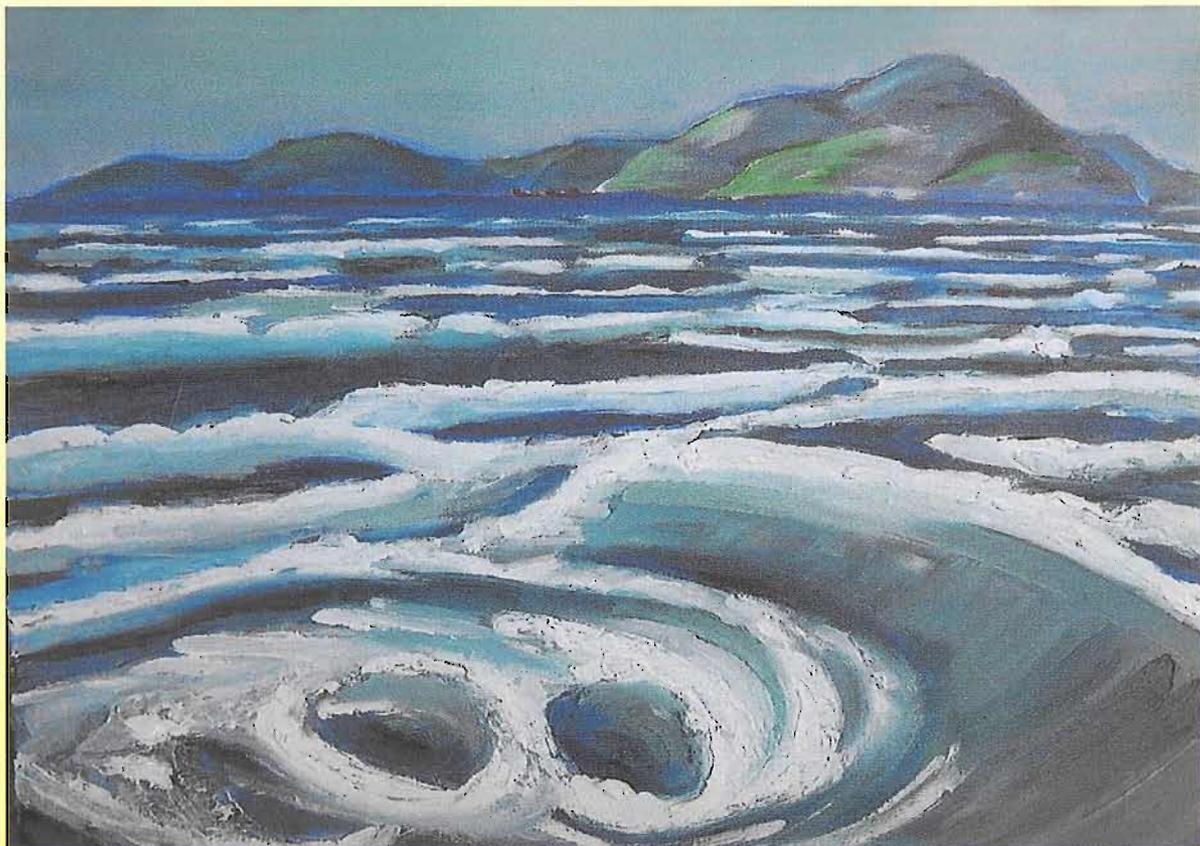
すぐわかる 英語のポイント

110 KEY POINTS IN LEARNING ENGLISH

110

ひける！英語学習ガイド
わかる！英語の仕組み
もてる！辞書とこの一冊

福井工業大学講師 片桐哲郎



青 山 社

すぐわかる
英語のポイント 110

110 KEY POINTS IN LEARNING ENGLISH

片桐 哲郎

青山社

推薦のことば

福井工業大学名誉教授 岩崎 達雄

本書の目的は、英語を習得するためのコツを教えることにある。言い換えると、「短い期間で能率的に英語をマスターするにはどうしたらよいか」を伝授するための優れた手引き書である。

受験生にしても、大学生にしても、英語学習に費やす時間は限られている。英語以外にも多くの教科があり、その量は膨大なものだ。だから無駄なことや余分なことを学習する余裕はないのだ。それなのに、これまでの参考書では、これも必要、あれも欠かせないと、微に入り細をうがって、関係事項をすべて取り上げようとする傾向が強かった。つまり学生の立場に立つよりは、執筆者として遺漏のないことを心がけてきたのである。

本書の意図は全く違う。著者が40年に及ぶ教師生活の経験の中からその集大成として、これだけはどうしても必要だという事項を精選して示したものが本書である。

その解説は、簡潔で、平易であり、例文は、わかりやすく、説明は、能率的である。また、練習問題や応用問題ももせているから、集中的に本書を学習すれば、読者の英語力は、短期間で格段に上達することは疑いないと思う。

なお、著者については、高校生や大学生に長年英語を指導してこられ、多くの功績をあげられたが、特に学習者の立場に立った、情熱的な指導はすばらしく、英語指導の達人の一人と言っても過言ではないだろう。

ここに、実力養成ハンドブックである『すぐわかる英語のポイント110』を心からご推薦申し上げる次第である。

はしがき

英文解釈をする上で必要な文法事項は限られています。それにもかかわらず、英文法は詳細すぎて、どの文法事項が常に大切であるかわからないまま、英文解釈に立ち向かってしまいます。そのたびに、学習者は英文解釈はどこから手をつけてよいか途方にくれるのです。

英文解釈は単語や熟語さえ知っていればわかると考えるのは、英語力がかかなりある人の場合です。英文解釈は単語の連想ゲームでは解決できないところに、そのむずかしさがあるのです。

そこで辞書を片手に英文解釈することができる **Minimum Essentials** (最少必要事項)をあなたに提示してみたいと思います。

本書は、「解釈に必要な英文法(40)」、「解釈の技術(30)」、「基本的な構文(30)」、「長文の大意把握(5)」、「基本的な熟語(5)」、「応用(5)」から構成されており、基本的に活用度の高いものを簡潔にまとめ、段階的に配列しました。これは私の英語教師としての板書事項であり、「むずかしいことを簡潔に」をモットーにして、能率的な英語学習を目指してきたものです。

英語の学習をするとき、辞書と共に『すぐわかる英語のポイント110』を常に手元において活用し、習熟していただきたいと思います。本書は「一般的なものから特別なものへ」を狙っていますので、例外的な文法事項や重要な例文は、余白に書き込んでもらいたいと思います。そして私の意図とあなたの意欲が一致したとき、本書は、あなたの良き伴侶になるものと確信しています。

○ 特徴

1. ひける！英語学習ガイドとして、いつでも、どこからでも引ける。
2. わかる！基礎基本から段階的に配列され、英語の仕組みが分かる。
3. もてる！英語理解のために、辞書とこの一冊が伴侶として持てる。

○ 用途

1. 高校1年の基礎から大学受験の要約まで、幅広く活用できる。
2. 大学生には、論文読解のハンドブックとして活用できる。
3. 週5日制の中で実力養成の補習テキストとして活用できる。
4. TOEFL の読解・文法・語法の点で、得点アップが期待できる。

本書の活用法

1. 最初の枠内のポイントは、一通り学習した内容のキャッチフレーズ(catch phrase)であり、その項目の内容をすべて連想させます。ですから、これらのポイントは、英語の授業等でいつでも公式のように自由に活用できます。
2. 例文は、そのポイントが英文の中でどのように使われているかを簡潔な例文で示したものです。できるだけ例文を暗唱すれば、ポイントを十分に理解したことになると思います。
3. 解説は、ポイントの解説ですが、特に、そのポイントがどのような意味で重要であるか、また、注意すべきことは何かを補足説明したものです。
4. 練習は、大学入試程度の問題ですから、高校生の方は必ず挑戦してみてください。問題が解けない個所があれば、それらは本書の110個のポイントの中にそれを解く鍵があります。
5. 余白は、あなたのスペースです。授業における先生の説明や家庭学習で見つけた例文、例外事項を余白にメモしてください。自主的に色鉛筆でアンダーラインしたり、メモすることは、あなたが意欲的になった証拠です。
6. 一通り英語を学習してきたが今一つ英文が飲み込めない方や、大学受験直前で短期間で復習したい方には、本書『すぐわかる英語のポイント110』をお薦めします。短期間に能率的に学習するには、本書は最適と考えています。
7. 大学生には、どのページのポイントからでも、気軽に目を通してください。短い英文ですが、どれも骨のある文法事項と人生観、世界観が窺える例文で、あなたは英語の構造や魅力的な英文に自然に興味を湧いてくるでしょう。
8. 巻末の索引は、従来あまり利用されていないことが多いのですが、再度英語を学びたいと考えている人や大学受験直前の人には、重要語句の確認に役立つものと考えます。

平成14年 4月10日

片桐 哲郎

目 次

推薦のことば	i
はしがき	iii
本書の活用法	iv
第 1 章 解釈に必要な英文法(40)	1
付：日常英会話(1)	2
A1 品詞	3
A2 5 文型(1)	4
A3 5 文型(2)	5
A4 文の構成要素	6
A5 句と節の違い	7
A6 句の種類	8
A7 節の種類	9
A8 文の種類(構造上)	10
A9 現在時制	11
A10 現在進行形(be+現在分詞)	12
A11 現在完了形(have+過去分詞)=現在の一種	13
A12 過去完了形(had+過去分詞)=時間差の意識	14
A13 時制の一致	15
A14 命令文	16
A15 態	17
A16 助動詞+完了形	18
A17 不定詞(to+動詞の原形)	19
A18 to のない不定詞(=原形不定詞)	20
A19 完了不定詞	21
A20 be+to 不定詞	22
A21 分詞(形容詞としての分詞)	23
A22 分詞構文=副詞句=M(修飾語)	24

A23	動名詞＝名詞の一種	25
A24	完了動名詞	26
A25	関係代名詞＝形容詞節＝M(修飾語)	27
A26	関係代名詞の省略(目的格)	28
A27	注意すべき関係代名詞	29
A28	関係副詞＝形容詞節＝M(修飾語)	30
A29	関係形容詞	31
A30	話法(1)	32
A31	話法(2)	33
A32	仮定法過去	34
A33	仮定法過去完了	35
A34	仮定法現在	36
A35	仮定法未来	37
A36	部分否定	38
A37	注意すべき否定語	39
A38	比較(形容詞と副詞)	40
A39	原級	41
A40	比較級	42
第2章	解釈の技術(30)	43
	付：日常英会話(2)	44
B1	英語の学習について	45
B2	短文重視主義	46
B3	前から訳す	47
B4	直訳と意識について	48
B5	be 動詞の訳し方	49
B6	前置詞＋名詞＝M(修飾語)	50
B7	When s＋v, S＋V 型	51
B8	副詞から転じた接続詞等	52
B9	関係代名詞, 関係副詞＝M(修飾語)	53
B10	無生物が主語のときは副詞的に訳す	54
B11	V の直後に疑問詞がきたら間接疑問	55

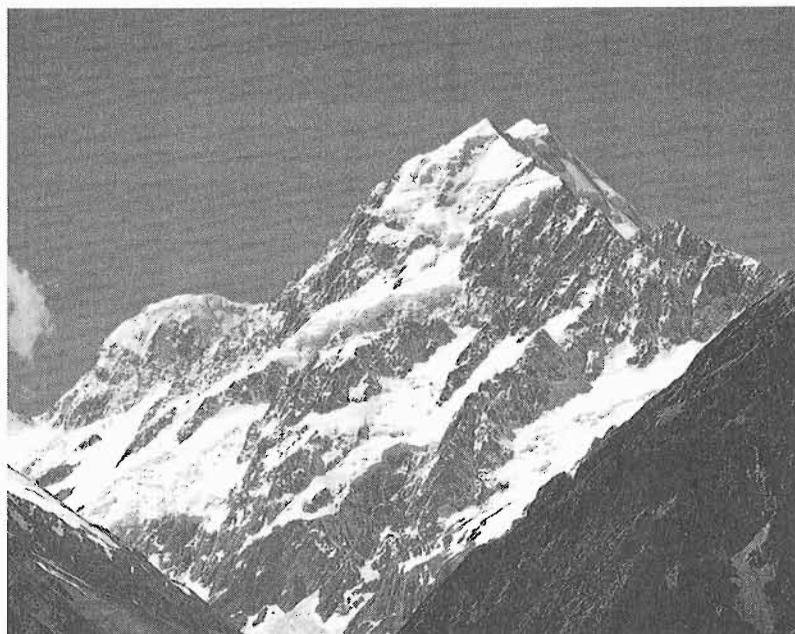
B12	前置詞の後の ~ing は動名詞	56
B13	くせ者の that	57
B14	くせ者の but	58
B15	くせ者の as	59
B16	for(期間)の訳し方	60
B17	受動態の訳し方	61
B18	Were, Had, Should, Would 等が文頭の場合	62
B19	同格の that の訳し方	63
B20	「with+名詞+形容詞(句)」の訳し方	64
B21	品詞を変えて訳す場合	65
B22	最上級の三つのポイント	66
B23	～の N 倍	67
B24	二重限定(関係代名詞)	68
B25	共通関係(共通に修飾する語句)	69
B26	挿入句の見分け方	70
B27	同格の種類と訳し方	71
B28	語順転倒を見抜くには	72
B29	ダッシュ, コロン, セミコロンの訳し方	73
B30	複雑な長文解釈の手順	74
第3章	基本的な構文(30)	75
	付: 人生の諺(1)	76
C1	It ~ to … の構文	77
C2	It ~ that … の構文	78
C3	It ~ that … の強調構文	79
C4	It ~ 疑問詞… の構文	80
C5	It ~ that ~ should の構文	81
C6	S ~ it ~ to … の構文	82
C7	S ~ it ~ that … の構文	83
C8	too ~ to … の構文 = so ~ that ~ cannot	84
C9	have+O+過去分詞	85
C10	have+O+原形不定詞	86

C11	not only A but also B = B as well as A	87
C12	形容詞+as+s+v, S+V	88
C13	No matter+疑問詞…=疑問詞・ever	89
C14	The+比較級+s+v, the+比較級+S+V	90
C15	It is true ~, but ~	91
C16	so ~ that … = such ~ that …	92
C17	whether ~ or ~	93
C18	so that ~ may	94
C19	lest ~ should	95
C20	not ~ but ~	96
C21	not ~ until …	97
C22	As …, so …	98
C23	So(As) far as … / So(As) long as …	99
C24	may well ~	100
C25	not so much ~ as ~	101
C26	No sooner ~ than …	102
C27	the last ~	103
C28	never ~ without ~ / never ~ but …	104
C29	no more ~ than …	105
C30	A is to B what C is to D	106
第4章	長文の大意把握(5)	107
	付：人生の諺(2)	108
D1	抽象から具体へ(論文, 随筆)	109
D2	Key word の発見(論文, 随筆)	110
D3	対比語句の発見(論文, 随筆)	111
D4	要点の整理(記述文)	112
D5	会話文の把握(物語, 小説)	113
	付：月の名前の物語	114

第 5 章 基本的な熟語(5)	115
付：語源の話	116
E1 熟語 1 (動詞＋前置詞)	117
E2 熟語 2 (be＋形容詞＋前置詞)	118
E3 熟語 3 (動詞＋副詞＋前置詞), (前置詞＋名詞)	119
E4 熟語 4 (前置詞句)	120
E5 熟語 5 (動名詞の慣用表現)	121
付：新聞英語の特徴	122
第 6 章 応用(5)	123
付：Eメールの英語	124
1. THE NEW YORK TIMES	125
2. THE MACQUENZY COUNTY	127
3. ENGLISH IN THE WORLD	129
4. WHAT IS CRIME?	130
5. COMMENTS ON HOW TO MAKE A SPEECH	131
練習問題解答	137
索引(重要語句)	155

第 1 章 解釈に必要な英文法

(A1～A40)



Mt. Cook (Southern Alps Mountains, New Zealand)

日常英会話 (1)

1. Nice to meet you. May I ask you a few questions? I'm lost.
(はじめまして) (ちょっとお尋ねしてもいいですか) (道に迷った)
2. May I have your name, please? It's been a long time. What's new?
(お名前を伺えますか?) (久しぶりですね) (変わらない?)
3. How's the weather today? It's a very beautiful day. It's cloudy today.
(今日の天気はどうですか?) (とても天気がいい) (今日は曇っているわ)
4. I beg your pardon? I can't follow you. I mean ~ .
(もう一度言ってください) (理解できません) (私の言っているのは~)
5. Where are you from? Where do you live? In Fukui City.
(ご出身はどちら?) (どこにお住まいですか?) (福井市です)
6. What do you do? What was your first impression of Japan? That's great!
(ご職業は?) (日本での第一印象は何ですか?) (すごいね)
7. What is your hobby? What sports do you do? Good job!
(ご趣味は?) (どんなスポーツをなさいますか?) (お見事!)
8. What school do you go to? What's your major? What club are you in?
(どちらの学校へ行ってますか?) (ご専攻は?) (何のクラブに入っているの?)
9. How long have you been in Japan? For about 2 years.
(これまで、どれくらい日本にご滞在ですか?) (おおよそ2年前からです)
10. What do you do in your free time? I have to go now.
(暇なとき何をなさいますか?) (そろそろ失礼しなくては)
11. What are you going to do next Sunday? I'll take you.
(今度の日曜日のご予定は?) (連れてってあげるよ)
12. Let's go shopping, shall we? Will you go out with me?
(買い物にいきましようよ) (デートしてもらえないかな)

A 1 品 詞

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 名 詞 | 3. 形容詞 | 5. 副 詞 | 7. 接続詞 |
| 2. 代名詞 | 4. 動 詞 | 6. 前置詞 | 8. 間投詞 |

■例 文

- 名 詞 人または事物の名を表す語 (cat, boy, school, book, Japan, wood, peace)
- 代名詞 名詞の代わりに使う語 (we, you, she, it, they, this, that, these)
- 形容詞 名詞(代名詞)を直接または間接に修飾する語 (big, pretty, easy, strange)
冠詞 (a, an, the) も形容詞に含まれる。
- 動 詞 動作, 状態を表す語 (go, work, love, give; be, seem, keep, remain)
will, shall, can, must 等のような助動詞も動詞に含まれる。
- 副 詞 動詞, 形容詞, 副詞または文全体を修飾する語 (quickly, very, here, surely)
- 前置詞 名詞, 代名詞の前に置いて, 形容詞句(☞A6), 副詞句(☞A6)を作る語
(at, in, of, for)
- 接続詞 語と語, 句と句(☞A6), 節と節(☞A7)とを結びつける語 (and, or, but ;
when, that, before, if, as, though)
- 間投詞 いろいろな感情を表す語 (Oh, Ah, Alas, Hurrah)

It is expensive, but it is very good. (それは高価だが,
代名詞 動詞 形容詞 接続詞 代名詞 動詞 副詞 形容詞 とても良い)

■解 説

I go to school. という文は, I, go, to, school という四つの部分から成り立っています。このように文を構成する最小の意味単位を語(word)といいます。この語は, その文中での働きによって, 八つの品詞に分けられます。これを八品詞といいます。

この八品詞は, 文の基本的な最小の単位ですから, あなたが英文を訳したり, 英文を作ったりするとき, とても重要です。これは人間の身体で言うと, 頭, 首, 胴体, 腕, 手, 足, 指といった最も基本的な名前ですから, 例文で品詞を理解しながら, 覚えましょう。

■練 習

A. 次の英文中の各語にアンダーラインを引き, 品詞に分解しなさい。

- Junko knows the answer to the question.
- Do they sell shoes at that store?
- Egypt is one of the oldest countries in the world.
- Who will look after the baby in that cradle?
- Though Betty felt quite sad, she did not shed tears.
- Alas, how idle I was!
- Such behavior is just like him.
- It may not be true, because John often tells a lie.

A 2 5文型 (1)

1. 第1文型	S+V	(～は ～する)
2. 第2文型	S+V+C	(～は ～である ～で) (～は ～となる ～と)
3. 第3文型	S+V+O	(～は ～する ～を)

■例 文

In spring some birds sing in the woods. (春, 鳥が数羽森で歌う)

M S V M

Naples is a beautiful city in Italy. (ナポリはイタリアの美しい都市です)

S V M C M

One of my friends became a doctor. (私の友達の一人は医者になった)

S M V C

Taro broke the eggs by mistake. (太郎はその卵を誤って割った)

S V O M

New York is a city which is full of life. (ニューヨークは活気に満ちた都市です)

S V C M

■解 説

主語(S), 述語動詞(V), 目的語(O), 補語(C)の四つの文の構成要素の組み合わせによって、五つの文型が生じます。いかなる英語の文も、この5文型の一つに過ぎません。英文を理解するためには、5文型をしっかりと覚えておかなければなりません。

上記の枠内のポイントは、必ず暗唱して、いつでも取り出せるようにしてください。英語の初学者にとっても、上級者にとっても、これは重要です。5文型は文の根幹をなすものですから、英語学習は、「5文型に始まり5文型に終わる」と言っても過言ではありません。

5文型のうちで、第2文型と第3文型は英語の代表的な文型ですから、語順に注意して、英語のスタイルを感覚的にとらえてみましょう。ただし、例文の文中Mは修飾語です。

■練 習

A. 次の英文を S, V, O, C, M の記号を使って、文型を調べなさい。

1. I climbed Mt.Fuji with my friends last summer.
2. Mary seems very happy.
3. This morning she looked sad to me.
4. There will be a dinner party at her house tomorrow.
5. Who is the man standing by the car?
6. The first thing science demands of us is that we observe.
7. It is not necessary to take a gift when you call on someone.
8. Those who love nature she loves in return.

A 3 5文型 (2)

4. 第4文型	S+V+O+O	(~は ~する ~に ~を)
5. 第5文型	S+V+O+C	(~は ~とする ~を ~と ~は ~する ~が ~であると)

■例 文

She showed me the way to the station. (彼女は私に駅へ行く道を教えてくれた)
S V O O M

We call him John. (私達は彼をジョンと呼んでいる)
S V O C

I found him studying hard. (私は彼が一生懸命に研究しているのがわかった)
S V O C M

Who taught your son how to swim? (誰があなたの息子に泳ぎ方を教えましたか)
S V O O

■解 説

補語(C)と目的語(O)との見分け方

第4文型と第5文型を比較しますと、表面上は同じ形をしています、内容は全く異なります。その違いは目的語(O)と補語(C)の違いです。

補語(C)は、主語(S)または目的語(O)について、叙述するものでありますから、第2文型では、S=C、第5文型では、O=Cの関係が成立しています。(☞ B20) 一方、目的語(O)は、主語(S)とは別なものでありますから、S≠Oの関係が成立しています。次の例で確かめてみましょう。

a. Tetsuya is a teacher. (S+V+C) → Tetsuya = a teacher.
S V C S C

b. Tetsuya met a young lady. (S+V+O) → Tetsuya ≠ a young lady.
S V O S O

■練 習

A. 次の英文をS, V, O, C, M の記号を使って、文型を調べなさい。

1. My uncle bought me a very beautiful book.
2. John made Mary his wife.
3. I found the box empty.
4. Ask your teacher how to pronounce this word.
5. John showed the letter to Mary.
6. Thinking makes what we read ours.
7. Please send me by express the articles mentioned in my list.
8. I had my watch stolen on the crowded bus.

A 4 文の構成要素

S(主語), V(述語動詞), O(目的語), C(補語), <M(修飾語)>

■例 文

- Writing English is more difficult than reading it. (動名詞句) 第2型
S (英語を書くことは, それを読むより難しい)
- Mr. Johnson is going to teach us English next year. (動詞句) 第4型
V (=will teach) (ジョンソン氏は来年私達に英語を教える予定である)
- She found the windowpanes broken. (過去分詞) 第5型
O C (彼女は窓ガラスが割れているのに気がついた)
- There is no reason why I should apologize. (形容詞節) 第1型
M (私が謝罪すべき理由がない)

■解 説

英文の構造が複雑になるにつれて, 文の構成要素の中身も複雑になります。そこでどういふ品詞や句, 節がそれぞれ, S, V, O, C, Mの中身になるかを調べてみましょう。

S = 名詞または名詞相当語句(代名詞, 動名詞, 不定詞, 名詞句, 名詞節)

V = 本動詞(自動詞<第1型, 第2型のV>, 他動詞<第3型, 第4型, 第5型のV>)
助動詞(can, must 等)

O = 名詞または名詞相当語句(代名詞, 動名詞, 不定詞, 名詞句, 名詞節)

C = 1. 名詞または名詞相当語句(代名詞, 動名詞, 不定詞, 名詞句, 名詞節)
2. 形容詞または形容詞相当語句(現在分詞, 過去分詞, 不定詞)

M = 1. 形容詞, 形容詞句(☞A6), 形容詞節(☞A7) S, O, Cの名詞にかかる。

2. 副詞, 副詞句(☞A6), 副詞節(☞A7) (注)Mは構成要素ではなくて, その<飾り>のようなものです。

上記の分類は, 少し複雑ですから, ここで簡単にまとめますと, S=名詞, V=動詞, O=名詞, C=名詞または形容詞, M=形容詞, 副詞ということになります。この程度にざつと頭に入れておくのが, ここでのポイントです。

■練 習

A. 次の英文の下線部が, 文の構成要素の何になっているかを調べ, 文型を指摘しなさい。

(例. 名詞句, O, 第3型)

1. I asked his daughter if she was seventeen years old.
2. Noriko seems to be honest.
3. We are social beings. We cannot live alone.
4. Anyone who knows Mr. Koizumi well respects him.
5. On Sundays you will see her playing the guitar in her garden.
6. Our family, school, and the place we work in are each a small society.

A 5 句と節の違い

1. 句 …… (s+v)の関係がない
2. 節 …… (s+v)の関係がある

■例 文

- The book is on the desk. (その本は机の上にあります) …… 句
 He said that it was under the table. …… 節
 s+v (彼はそれはテーブルの下にあると言った)
- Please tell me how you found it. …… 節
 s+v (君がそれをどのようにして見つけたか教えてください)
- To solve the problem seems difficult. (その問題を解決することは困難に思える) … 句
 I don't know whether she will join us or not. …… 節
 s+v (私は彼女が私達に加わるか加わらないかわからない)
- To my relief a good idea occurred to me. …… 句
 (ほっとしたことには良い考えが頭に浮かんだ)

■解 説

句とは、語(word)がいくつか集まって、一つの品詞の働きをし、かつ、(s+v)の関係がないものをいいますが、節には、(s+v)の関係が含まれています。

句と節の理解は、今後の英語学習で、予想外に重要です。たとえば、次の文を単文にせよとか、複文にせよとかの書き換え問題や和文英訳の問題のとき、もし、知らなければ、どのように解答したらよいかわからなくなってしまうでしょう。(A8) 今一つ重要なことは、英文解釈のとき、語群(a word group)として意味をとっていく構想が大切ですから、句や節はこの意味においても重要な「グループ単位」といえるでしょう。

■練 習

A. 次の英文の句や節を指摘し、全文を日本語に訳しなさい。

1. I will do it when I have time.
2. The car in the new garage is hers.
3. Thank you for the picture which you sent me.
4. Never put off till tomorrow what you can do today.
5. To be frank with you, I don't like him.
6. It is very difficult to master a foreign language.
7. What is beautiful is not always good.
8. I looked up at the stars twinkling in the sky.
9. None of us know if she will attend the conference.
10. Do everything at the right time; he who is not punctual wastes the time of others as well as his own.

A 6 句の種類

(文の要素としては)

1. 名詞句(主語や目的語や補語になる)…………… S, O, C
2. 形容詞句(名詞を修飾したり、補語になる)…………… M
3. 副詞句(動詞などを修飾する)…………… M

■例 文

- To learn Chinese is not easy. (中国語を学ぶことは容易ではない) 名詞句
S
- There is no hope of his recovering. (彼の回復の見込みがない) 形容詞句
M
- My family are all in good health. (私の家族は、皆元気です) 形容詞句
C
- Talking with him, I am so happy. 副詞句
M (彼と話をしていると、私はとても楽しい)
- I regretted not having taken your advice. 名詞句
O (君の忠告に従わなかったことを後悔した)
= I regretted that I had not taken your advice.

■解 説

句はすべて(s+v)の関係が含まれていないことに注目してください。そして、句が、名詞、形容詞、副詞などの役割をします。句と節との書き換え問題のとき、特に重要になってきますから、句と節の区別を覚えておきましょう。

1. 名詞句 …… 不定詞、動名詞
2. 形容詞句 …… 不定詞、分詞(現在分詞、過去分詞)、前置詞+名詞
3. 副詞句 …… 不定詞、前置詞+名詞、分詞構文

■練 習

A. 次の英文の下線部が何句かを指摘し、全文を日本語に訳しなさい。

1. She is not the kind of girl to do such a thing.
2. It is advisable to drive slowly on a wet day.
3. Write your name here with care.
4. The baseball game was delayed on account of rain.
5. We live in a quiet village surrounded by hills.

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. After many difficulties in crossing the Atlantic, Columbus at last reached the New World on the 12th of October, 1492.
2. As a matter of fact, I think many people judge goods only by price. They are those who have more money than brains.

A 7 節の種類

(文の要素としては)

1. 名詞節(主語や目的語や補語になる)…………… S, O, C
2. 形容詞節(名詞を修飾したり, 補語になる)…………… M (関係詞)
3. 副詞節(動詞などを修飾する)…………… M

■例 文

- I know that he is a famous singer. 名詞節
O (私は彼が有名な歌手であることを知っている)
- This is the book which I read yesterday. 形容詞節
(関係代名詞) M (これは私が昨日読んだ本です)
- This is the town where she works. 形容詞節
(関係副詞) M (ここは彼女が働いている町です)
- When he comes, we will go. 副詞節
M (彼が来たら, 出かけよう)

■解 説

節には, すべて(s+v)の関係が含まれていることに注目しましょう。そして, これらが名詞, 形容詞, 副詞の働きをします。たとえば, 下線部を節にせよとか, 複文にせよとかの設問のときは, これらの節の形を活用しなければなりません。

英文解釈や和文英訳で, 句や節を駆使できれば, もう英語は一応マスターしたと言ってもよいほどです。

1. 名詞節 …… ア. that, whether, if を含む節 イ. 疑問詞を含む節 ウ. 先行詞を含む関係代名詞 what
2. 形容詞節 …… 関係詞(ア. 関係代名詞 イ. 関係副詞)
3. 副詞節 …… 従位接続詞(when, before, after, as, while, though等)を含む節

■練 習

A. 次の英文の下線部が何節かを指摘し, 全文を日本語に訳しなさい。

1. When you see her, remember me to her.
2. I don't know if she will go there with me.
3. The time will come when you will understand it.
4. Every time I called at his house, he was out.
5. He will give you everything that you want.

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. A sound education does not mean that a boy or girl leaves school with his or her head filled with many facts and theories.
2. What makes a study scientific is not the nature of the things with which it is concerned, but the method by which it deals with these things.

A 9 現在時制

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1. 現在の状態 | 4. 現在完了の代用 | 7. 歴史的現在 |
| 2. 習慣的行為 | 5. 確定的未来 | |
| 3. 不変の真理 | 6. 時, 条件の副詞節 | |

■例 文

- | | |
|--|------------------------------|
| 1. I <u>have</u> a good dictionary now. | (私は今一冊の良い辞書を持っている) |
| 2. We <u>play</u> tennis after school every day. | (私達は毎日放課後テニスをする) |
| 3. The sun <u>rises</u> in the east and <u>sets</u> in the west. | (太陽は東から昇り, 西に沈む) |
| 4. I <u>hear</u> (=have heard) that she went to Spain. | (彼女がスペインへ行ったようだ) |
| 5. Tomorrow <u>is</u> Sunday. | (あすは日曜日です) |
| 6. If it <u>rains</u> tomorrow, I will stay home. | (明日雨が降れば, 私は家にいます) |
| 7. The knight <u>steps</u> forward and <u>kisses</u> the lady on the hand. | (その騎士は, 進み出て, その貴婦人の手にキスをする) |

■解 説

一口に, 現在形と言っても, 上記の七つの使い方があります。現在形を正しく理解するれば, 英文解釈や和文英訳をするときに, 深い理解と正確な英文解釈ができます。次の(暗誦文)は重要です。英作文や誤文訂正でとても役に立ちます。

○時や条件の副詞節(例文6)=[副詞節の場合は, 意味が未来であっても現在形を用いる]
(暗誦文) 次の英文を比較検討しなさい。

- | | |
|--|-----------------------|
| a. <u>When he comes back</u> , I will tell him all about it. | (副詞節) |
| (彼が戻って来たら, 私は彼にそれについてすべて話そう) | |
| b. I don't know <u>when he will come</u> . | (私は彼がいつ来るか知らない) (名詞節) |
| c. The time will come <u>when you will succeed in it</u> . | (形容詞節) |
| (あなたがそれに成功する時が来るだろう) | |

■練 習

A. 次の英文に, 誤りがあれば, 訂正しなさい。

1. The earth went round the sun once a year.
2. Wait here please till she will come home.
3. The newspaper is saying we'll have a cold winter this year.
4. The students will be happy when school will be over.
5. I don't know whether she will be in good health or not.

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

It is not a good practice to interrupt your reading in order to consult a dictionary every time you come across an unfamiliar word. Look it up in the dictionary only if it is a key word on which the meaning of the whole passage depends.

A 10 現在進行形 (be+現在分詞)

1. 現在進行中の動作 (～している, ～しかけている)
2. 現在の常習的行為 (いつも～している)－不快感
3. 未来形の代用 (～の予定である)

■例 文

1. She is making a cake now. (彼女は今ケーキを作っています)
The tulips are opening. (チューリップが開きかけている)
2. He is always smoking. (彼はいつも煙草をふかしている－いやだな) 不快感
The old man is constantly complaining. (その老人はいつも不平を言っている)
3. Mr. Kato is leaving for Kyoto tomorrow. (加藤氏は明日京都に出発する予定である)
My wife is having a baby in May. (私の妻は5月に出産の予定です)

■解 説

「be+現在分詞」の形で、ある動作が継続進行中であることを示します。これを進行形といいます。be 動詞が現在の時は、現在進行形といいます。この現在進行形は、下記の各種の進行形の基本となるものですから、よく理解しましょう。

そこで、be 動詞を、基本時制や完了時制に合わせると、次の六つの形になります。一応目を通しておきましょう。必要があれば、文法書でもう少し詳しく調べてみましょう。

- | | | |
|----------|------------|------------|
| 1. 現在進行形 | 3. 未来進行形 | 5. 過去完了進行形 |
| 2. 過去進行形 | 4. 現在完了進行形 | 6. 未来完了進行形 |

1. He is reading now. (彼は今本を読んでいる)
2. He was reading then. (彼はその時本を読んでいた)
3. He will be reading tonight. (彼は今夜本を読んでいるであろう)
4. He has been reading for an hour. (彼は1時間前から本を読んでいる)
5. He had been reading for 2 hours. (彼はその時その2時間前から本を読んでいた)
6. He will have been reading for 3 hours. (彼は3時間前から本を読んでいたことになるでしょう)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. I don't feel like studying this evening. I have been suffering from a headache all day.
2. My family are also much delighted to hear that you are coming by the second down train as I shall go to meet you at the station.
3. Man has been eating apples for thousands of years. The fruit first grew near the Mediterranean Sea and is now most widely grown in the world.

A 11 現在完了形 (have+過去分詞) = 現在の一種

1. 完了 (ちょうど~したところだ, もう~してしまった)
2. 結果 (~してしまった)
3. 経験 (今までに~したことがある)
4. 継続 (今までずっと~している)

■例 文

I have just finished reading the book. (私はちょうどその本を読んだところだ) 完了
 She has gone to San Francisco. (彼女はサンフランシスコへ行ってしまった) 結果
Have you ever been to Spain? (あなたはスペインへ行ったことがありますか) 経験
 We have never heard him speak ill of others. 経験
 (私達は彼が他人の悪口を言うのを聞いたことがない)
 I have known him since he was a child. (私は彼を子供の頃から知っている) 継続

■解 説

現在完了は、基本的には、過去の動作、状態が、「現在」と関わりのあることを示しています。つまり、現在完了は現在の一種です。従って、明らかに過去を表す副詞とは一緒に用いられません。例：I have seen him yesterday. (誤)

また、現在完了は、よく副詞(句)を伴うので、その副詞(句)によって、完了、結果、経験、継続のいずれであるか区別がつくことが多いのです。次の副詞に注意して、完了であるか経験であるかを判断できるように練習しましょう。

1. 完了 just(ちょうど), now(いま), already(すでに), yet(まだ, もう)
2. 結果 go(行く), lose(失う), move(動く), fall(落ちる)等の「非瞬間的」な動詞とともに使われます。
3. 経験 ever(かつて), never(決して~ない), before(以前に), once(かつて), often(よく)
4. 継続 How long ~?(どのくらい~), since(~以来), always(いつも), for(~の間)

■練 習

A. 次の英文に、もし誤りがあれば、正しなさい。

1. I have climbed Mt. Fuji last summer.
2. When have you finished your homework?
3. He came back just now.

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. The best way to make sure you have understood what you have read or heard is to reproduce it briefly in your own words. This is called summarising.
2. The sun has been shining with the same power and brilliance for hundreds of millions of years. When and how it began no one knows though the human mind has worked out many theories.

A 12 過去完了形 (had+過去分詞) = 時間差の意識

1. 完了 (～したところだった)
2. 結果 (～してしまっていた)
3. 経験 (～したことがあった)
4. 継続 (～していた)
5. 大過去 (～したとき, すでに～していた) …… 時間差の意識

■例文

- I had just written a letter when he came back. 完了
 (彼が帰って来たとき, ちょうど手紙を書き終えたところだった)
- Before night fell, they had reached their destination. 結果
 (夜になる前に, 彼らは目的地に着いていた)
- She said that she had been to Australia once. 経験
 (1度オーストラリアへ行ったことがあると彼女は言った)
- She had been there for 5 years before she came to Fukui. 継続
 (彼女は福井に来る前, 5年間そこに住んでいた)
- When I got to the station, the train had already started. 大過去
 (私が駅に着いたとき, その列車はすでに出発していた)

■解説

現在完了が「現在」を基準にして述べるのに対して, 過去完了は「過去」のある時を基準にして, それ以前のことを述べています。常に過去とそれより前の過去の意識が働いているときに用います。



○過去完了形と過去形の関係

I bought a book, and I lost it the next day. (過去形)

上の文で, bought と lost では明らかに時間差がありますが, and, but, before, after 等の接続詞を使って時間の経過が表現できれば, 過去完了形を使う必要はありません。しかし, 次の場合には, 過去完了を使う必要があります。

I lost the book that I had bought the previous day.

■練習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

Christopher Columbus discovered America on the 12th of October, 1492. He had spent eighteen years in planning for that wonderful first voyage which he made across the Atlantic Ocean.

A 13 時制の一致

主節のVが現在形から過去形が変わったとき、従属節のvは過去形または過去完了形になる

■例文

主節のV	従属節のv	
I <u>think</u> that she <u>is</u> happy.		(私は彼女が幸福 <u>である</u> と思う)
I <u>thought</u> that she <u>was</u> happy.		(私は彼女が幸福 <u>である</u> と思った) [訳に注意](1) (現在)
I <u>think</u> that she <u>has been</u> (was/had been) happy.		(私は彼女が幸福 <u>であった</u> と思う)
I <u>thought</u> that she <u>had been</u> happy.		(私は彼女が幸福 <u>であった</u> と思った) [訳に注意](2) (過去)
I <u>think</u> that she <u>will be</u> happy.		(私は彼女が幸福 <u>になる</u> だろうと思う)
I <u>thought</u> that she <u>would be</u> happy.		(私は彼女が幸福 <u>になる</u> だろうと思った)

■解説

時制の一致で、英文解釈上注意すべきなのは、次の二点です。

1. 主節と従属節の動詞がともに過去のとときには、従属節の動詞は現在のように訳します。

例文の(1)参照

2. 主節の動詞が過去で、従属節の動詞が過去完了のとときには、従属節の動詞は過去のように訳します。

例文の(2)参照

また、時制の一致は、話法の転換のときに、非常に重要ですので、この原則に習熟しておいてください。(☞ A30, A31) 時制の一致の例外には、1. 不変の真理 2. 現在の事実、習慣 3. 歴史上の事実 4. 仮定法等がありますので調べてみましょう。

例：We learn at school that the earth is round.

We learned at school that the earth is round. (不変の真理)

■練習

A. 次の英文を()内の指示に従って書き換えなさい。

1. It seems that he was wrong. (seemsを過去形に)
2. She told me that she had been ill. (toldを現在形に)
3. He says that the earth moves around the sun. (saysを過去形に)

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. When he asked me what was the matter, I told him that I had not slept well.
2. I couldn't count how many days had passed, for the raft flowed on and on in utter darkness through a long tunnel.

A 14 命令文

1. 文頭に動詞(原形)が来たら命令文
2. 1人称, 3人称に対する命令にはLetを用いる

■例 文

Come right away. (直ちに来なさい)	Never mind. (気にするな)
Don't open the door, please.	(ドアを開けないでください)
Be more careful. (もっと気をつけなさい)	Don't make a mistake. (間違いをするな)
Please let me try again. (もう一度私にやらせてください)	Please + 命令文 = 依頼文
Let him wait.	(彼を待たせなさい)
Let's play tennis, shall we?	(テニスを一緒にしましょうか)
<u>You</u> stand up.	(あなた, 立ちなさい) [youは強く発音する]
Open the window, will you? (窓を開けてくれませんか)	命令文 + will you? = 依頼文

■解 説

命令文に関連した重要な表現に、次のようなものがあります。入試にもよく登場しますので、確実に押さえておきましょう。

1. 命令文 + and = 「～せよ, そうすれば」

Work hard, and you will succeed.

(一生懸命に勉強しなさい, そうすれば成功するでしょう)

= If you work hard, you will succeed.

2. 命令文 + or = 「～せよ, そうしないと」

Work hard, or you will fail. (一生懸命に勉強しなさい, そうしないと失敗するだろう)

= Unless you work hard, you will fail.

3. 譲歩命令「たとえ～しようとも」「たとえ～であろうとも」

Say what you will, no one will believe it.

= Whatever you may say, no one will believe it.

(たとえあなたが何を言おうとも, 誰もそれを信じないだろう)

■練 習

A. 次の英文の内容を命令文に直しなさい。

1. You must not speak Japanese here.
2. She must not go with that man.
3. Shall we go to the park?

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. Half an hour more, and you will get to the station.
2. Be careful not to interrupt others when they are speaking; hear them out, and you will understand them all the better.

A 16 助動詞＋完了形

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1. may | ＋ 完了形 (～ <u>した</u> かもしれない) |
| 2. must | ＋ 完了形 (～ <u>した</u> にちがいない) |
| 3. cannot | ＋ 完了形 (～ <u>した</u> はずがない) |
| 4. need not | ＋ 完了形 (～ <u>する</u> 必要がなかったのに)〈実際はしてしまった〉 |
| 5. should (ought to) | ＋ 完了形 (～ <u>すべき</u> だったのに)〈実際はしなかった〉 |

■例 文

- He may have been ill in bed. (彼は病気で床についていたかもしれない)
She must have arrived at the station. (彼女は駅に着いたかもしれない)
That gentleman cannot have said so. (あの紳士はそんなことを言ったはずがない)
We need not have hurried so much. (私達はそんなに急いでいく必要がなかったのに)
You should have come here yesterday. (君は昨日ここに来るべきだったのに)
He cannot have arrived there yet. (彼はそこにまだ着いたはずがない)
I met her last winter — it might have been about the middle of December.
(私は彼女に昨年の冬会った。— それは12月の中旬頃であったかもしれない)

■解 説

助動詞＋完了形の形は、いずれも過去のことに對する現在時における判断を表しています。「～した」と常に訳することが大切です。また、上記のように取り出した例文では理解できるでしょうが、応用文の中ではこの形を見落としがちになるので、注意すべきです。

比較：He may tell a lie. (彼は嘘をつくかもしれない)

He may have told a lie. (彼は嘘をついたかもしれない)

助動詞＋完了形

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. I can't find the book anywhere. He must have taken it with him when he went home.
2. You shouldn't have refused his proposal.
3. My watch is very slow. I must have forgotten to wind it up, or to set it by the time signal. Its workings cannot be out of order..
4. You say you have just come across him at the street corner. It can't be true. You must have taken some other person for him. I just phoned him, and his mother said to me, "He has gone to France."

A 17 不定詞 (to+動詞の原形)

- | | | |
|-----------|--------------------|------------|
| 1. 名詞的用法 | (~すること)..... | S, O, Cとして |
| 2. 形容詞的用法 | (~すべき~)..... | 名詞にかかる |
| 3. 副詞的用法 | (~するために, ~して)..... | 動詞にかかる |

■例 文

1. 名詞的用法

To get up early is good for the health. (早起きは健康に良い)
= It is good for the health to get up early.

2. 形容詞的用法

He has few friends to talk with. (彼は相談すべき友達がほとんどいない)
The easiest way to get there is by taxi. (そこに着く最も楽な方法はタクシーの利用だ)

3. 副詞的用法

He studied to pass the examination. (彼は試験に合格するために勉強した)
She will be surprised to hear the news. (彼女はそのニュースを聞いて驚くでしょう)
He tried it again, only to fail. (彼は再び試みたが、結局失敗しただけだった)
副詞的用法の結果

■解 説

不定詞, 分詞, 動名詞の三つは, 準動詞と呼ばれ, それぞれ動詞の性質を持ちながら, 名詞, 形容詞, 副詞の働きをします。ここでは, 不定詞の三つの用法, つまり, 1. 名詞的用法, 2. 形容詞的用法, 3. 副詞的用法を完全に理解し, 暗記してください。準動詞に慣れてくると, 英作文の時に, 大変便利です。なお, 準動詞の含まれている英文がほとんどですから, 英語学習では避けて通れませんね。

A. 不定詞の種類

1. to 不定詞 To see is to believe. (見ることは信じることである 百聞は一見にしかず)《諺》
2. 原形不定詞 I heard the bell ring. (私はベルが鳴るのを聞いた) (☞A18)

B. 不定詞の形

1. 単純不定詞 To teach is to learn. (教えることは学ぶことです)
2. 完了不定詞 He seems to have seen her. (彼は彼女に会ったように思われる) (☞A19)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

- My chief aim is to point out the difficulties of the matter.
- An artist earns money in order to work well.
- He gave up smoking so as not to harm his health.
- It is a very good thing for children to have a room of their own where they can make as much noise as they like without being disturbed.

A 18 to のない不定詞 (=原形不定詞)

第5文型 S+V+O+C (Cが「to のない不定詞」のとき)

1. 使役動詞 (SはOに～させる)

make, let, have, (help)

2. 感覚動詞 (SはOが～するのをVする)

see, hear, feel, watch, notice など

■例 文

1. I made him post a letter yesterday. (私は彼に昨日手紙を投函させた)
She let her hair grow long. (彼女は髪を長く伸ばしておいた)
I had Mr.Kato find me a house. (私は加藤氏に家を見つけてもらった)
They helped me put away the books. (彼らは私が本を片づけるのを手伝ってくれた)
2. I saw her enter the library. (私は彼女が図書館に入るのを見た)
Did you hear a dog bark? (犬が吠えるのが聞こえましたか)
We felt our house shake. (私達は家が揺れるのを感じた)
I didn't notice you raise your hand. (君が手を上げたのに気がつかなかった)

■解 説

to のつかない原形不定詞は、名詞的、形容詞的、副詞的の各用法を持たず、常に、動詞的に用いられます。また、原形不定詞は文型 S+V+O+C の第5型の英文の C において、使用されていることに目を向けてください。

原形不定詞の文を受動態に変えるときには、to 不定詞に変わります。(☞ A 15)

She made me write a letter. (彼女は私に手紙を書かせた)

= I was made to write a letter by her. (私は彼女によって手紙を書かされた)

■練 習

A. 次の英文に誤りがあれば、訂正しなさい。

1. It is kind for you to do so.
2. He wanted everything is in good order.
3. She was made go there against her will.
4. You had better not run so fast.
5. Her dress made her to look neat and clean.

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. All that he learned made him realize how little he knew in comparison with what remained to be known.
2. It was a snail on the wall that taught me how to learn the poem. I saw it crawl up the wall bit by bit. It did not stop, nor turn back, but went on and on.

A 19 完了不定詞

1. to have+過去分詞(完了形)
2. 「～した」と常に訳す
3. V(述部動詞)よりも、一つ過去を表す

■例 文

1. He seems to be happy. (彼は幸福であるように思える) 単純不定詞
=It seems that he is happy.
V Vと同じ時制
2. He seems to have been happy. (彼は幸福であつたように思われる) 完了不定詞
=It seems that he was happy. 訳に注意
V Vより過去
3. He seemed to be happy. (彼は幸福であるように思われた) 単純不定詞
=It seemed that he was happy.
V Vと同じ時制
4. He seemed to have been happy. (彼は幸福であつたように思われた) 完了不定詞
=It seemed that he had been happy. 訳に注意
V Vより過去

He seemed to have met her before. (彼は以前彼女に会つたようだった)

■解 説

He seems to be happy. の英文において、to be は、単純不定詞であるので、seems のVと同じ時制です。一方、to have been は、完了不定詞ですから、Vよりも一つ過去を表すので、迷わず常に、「～した」と訳せばよいのです。

長文読解の英文の中でも、完了不定詞の形を自然に見つけられることが大切です。また、完了不定詞は上記の例文のように書き換え問題としてもよく出題されるので、よく習熟しておく必要があります。

■練 習

A. 次の英文を単文に書き換えなさい。

1. It seems that she knows the fact.
2. It is said that he lived in New York.
3. It was believed that she had been ill.

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. They believed him to have been innocent of the crime.
2. Men learned to build dams thousands of years ago. The first dams appear to have been walls of earth. They helped to some extent, but flood waters tended to eat through them.

A 20 be + to 不定詞

1. 予定 (～することになっている)
2. 義務 (～しなければならない)
3. 可能 (～される) …………… be + to + be + 過去分詞の形のと き
4. 運命 (～の運命にある)
5. 意図 (～したいなら) …… If 節の中のと き

■例 文

We are to meet her at the station. (私達は駅に彼女を出迎えに行くことになっている)
I am to inform him of the matter. (私はそのことについて彼に知らせなければならない)
Not a cloud was to be seen in the sky. (空には雲一つ見られなかった)
She was never to return home. (彼女は家に二度と戻らぬ運命にあった)
If you are to live longer, you must give up smoking right now.
(もし人より長く生きたいならば, 直ちに煙草を止めなければならない)

■解 説

<独立不定詞について>

不定詞が主文から独立して、文全体を修飾する副詞句になる場合があります。これを独立不定詞といいます。これらは若干の決まり文句に限られていて、熟語として使われています。ですから、一つ一つ覚えるべきでしょう。

To tell the truth, he tells a lie. (本当のことを言えば、彼は嘘をついている)

To be sure, this is very good. (確かにこれはとてもよい)

so to speak (言わば) needless to say (言うまでもないが)

to begin with (まず第一に) to be brief(=short) (手短かに言えば)

strange to say (不思議なことに) to be frank with you (率直に言えば)

to make matters worse(さらに悪いことに) not to speak of ~ (～は言うまでもなく)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. Time is not to be wasted in reading worthless books.
2. If you are to get full marks in English, you must study hard.
3. We are to spend our holidays in Karuizawa this summer.
4. Real liberty involves thinking of the other fellow and giving up your desires if they will harm him. If liberty is to be enjoyed by everyone, everyone must give up the idea that it means freedom from all restraints or controls.

A 21 分詞（形容詞としての分詞）

1. 現在分詞の形容詞的用法（～している～） ～ing
 2. 過去分詞の形容詞的用法（～された～） 過去分詞形

■例 文

Don't wake the sleeping baby. (眠っている赤ちゃんを起こすな)

The man standing by the gate is my father. (門のそばに立っている人は父です)

The lost dog came back yesterday. (いなくなった犬が昨日帰ってきた)

This is the novel written by Soseki. (これは漱石によって書かれた小説です)

■解 説

1. 現在分詞及び過去分詞が単独で用いられる場合は、修飾する名詞の前におかれます。
 (前位用法)
- a. 現在分詞 a barking dog (吠えている犬) ～している～
 b. 過去分詞 a broken window (壊された窓) ～された～
2. 現在分詞及び過去分詞が副詞句や目的語を伴う場合は、修飾する名詞の後におかれます。
 (後位用法)
- a. 現在分詞 The girl sitting in the corner is my sister. (単文)
 = The girl who is sitting in the corner is my sister. (複文)
- b. 過去分詞 This is a poem written by Keats. (単文)
 = This is a poem which was written by Keats. (複文)
- この用法は、単文、複文の書き換え問題としてよく出題されますから、練習しましょう。

■練 習

A. 次の英文の()内の動詞を現在分詞または過去分詞にしてください。

- There are 16 candles (light) on the birthday cake.
- The police returned the (steal) car to its owner.
- A (drown) man will catch at a straw. 《諺》
- They have a daughter (name) Betty.

B. 次の英文を日本語に訳してください。

Most of the actors were poor and ragged persons wandering from town to town. Coming to a village, they built a wooden stage, usually, in the courtyard of an inn. On this platform they acted their plays, the villagers standing about and watching.

A 22 分詞構文=副詞句=M(修飾語)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 時 (～するとき) | 4. 譲歩 (～するけれども) |
| 2. 理由 (～なので) | 5. 付帯状況 (～しながら) |
| 3. 条件 (～ならば) | そして～する |

■例 文

Arriving (When he arrived) at the station, he found his train gone.

(彼が駅に着いたとき、彼の列車は出てしまっていた)

Not knowing (As I didn't know) what to do, I asked for his advice.

(私は、どうしてよいかわからなかったので、彼の助言を求めた) [Knowing not とは言わない]

Turning to the right, you will find the tower. (= If you turn～)

(もし右に曲がれば、あなたはその塔を見つけるでしょう)

Sitting in the sun, I feel cold. (= Though I am sitting～)

(日なたに座っているけれども、私は寒く感じる)

She smiled brightly, extending her hand. (= and extended～)

(彼女は明るく微笑んで、手を差し出した)

■解 説

分詞構文の作り方

1. 主語が同じ場合 (he = he)

When he saw the policeman, he ran away.
 × × Seeing the policeman, he ran away.

2. 主語が異なる場合 (it ≠ I)

As it was rainy, I stayed at home.
 × It being rainy, I stayed at home.

3. 受け身形の場合 (he = he)

Though he was born of a poor family, he became very rich.
 × × (being) Born of a poor family, he became very rich.

■練 習

A. 次の英文を()内の指示に従って書き換えなさい。

1. Night coming on, the children went home. (接続詞を用いて)
2. While I was reading a book, I fell asleep. (分詞構文を用いて)
3. Seen from an airplane, houses look like match-boxes. (接続詞を用いて)

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. Written in a style that is easy to read, the book has a great many readers.
2. Considering the immense difficulty of the English language to Japanese students, the ability of some of my students to express their thoughts in it is astonishing.

A 23 動名詞=名詞の一種

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 動詞の原形+ ing | 3. S, O, C, 前置詞後 |
| 2. 「～すること」 | |

■例 文

1. 名詞的用法(動名詞の代表的な用法)

- Rising early is good for the health. (早起きは健康によい) S
 I don't like traveling by air. (私は飛行機による旅行を好みません) O
 My hobby is collecting old stamps. (私の趣味は古い切手を集めることです) C
 I am interested in learning English. (私は英語を学ぶことに興味をもっている)前置詞後

2. 形容詞的用法(やや特殊な用法)

- a drinking water = a water for drinking (飲料水) (注)
 a smoking room = a room for smoking (喫煙室) a sitting cat (座っている猫)
 a sleeping car = a car for sleeping (寝台車) 現在分詞

■解 説

動名詞の基本は、動詞と名詞の働きをし、文中では全体として名詞の働きをします。ですから、動名詞は目的語や副詞を伴いますが、全体としては、名詞として位置づけられます。

例: Eating food fast is not good. (食物を早く食べることは、良くない)
 動名詞 目的語 副詞

1. 文の主語と一致している場合は、意味上の主語を書きません。

I am afraid of being late. = I am afraid that I will be late.
 (私は遅れはしないかと心配だ)

2. 文の主語と一致していない場合は、意味上の主語(his または him)を書きます。(=動名詞の意味上の主語)

I am afraid of his(him) being late. = I am afraid that he will be late.
 (私は彼が遅れはしないかと心配だ)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. I am sure of his succeeding in the examination.
2. He fell asleep last night without turning off the TV.
3. I remember posting the letter.
4. I remembered to post the letter.
5. At first he refused the money I offered, but I insisted on his taking it. Man is sometimes more generous when he has little money than when he has plenty; perhaps to prevent his being thought to have but little.

A 24 完了動名詞

1. **having** + 過去分詞
2. 「～したこと」
3. 述部動詞(V)時制よりも一つ前を表す

■例 文

He repents being idle. (彼は怠けていることを後悔している)

= He repents that he is idle.

He repents having been idle. (彼は怠けていたことを後悔している)

= He repents that he was idle.

He repented having been idle. (彼は怠けていたことを後悔した)

= He repented that he had been idle.

Are you not ashamed of having done so?

(君はそうしたことを恥ずかしく思わないのですか)

〈例外〉下の英文で seeing は完了動名詞ではないが、述部動詞より一つ過去を意味する。

I remember seeing her before. = I remember having seen her before.

(私は彼女に以前にあった覚えがある)

I shall never forget seeing her on that day. = I shall never forget having seen her on that day.
(私は彼女にその日会ったことを決して忘れないでしょう)

■解 説

He repents being idle. の英文において、being idle の時制は repents (現在形)と同じですが、having been idle に変われば、述部動詞(V) repents より一つ過去を意味し、常に「～した」と訳せばよいのです。

長文読解の英文の中でも、完了動名詞の形を自然に見つけられることが大切です。また、完了動名詞は上記の例文のように書き換え問題として出題されることがあります。完了動名詞は完了不定詞と考え方がよく似ています。(☞ A 19)

■練 習

A. 次の英文を、動名詞を用いて単文に書き換えなさい。

1. I am sure that he will come this afternoon.
2. He is proud that his son won a gold medal.
3. He regretted that he had done such a thing.

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

A boy bathing in a river, was in danger of drowning. He called out to a traveler, who was passing by, for help. The traveler, instead of holding out a helping hand, scolded the boy for having gone too far into the river. "Oh, sir," cried the boy, "Please help me now, and yell at me afterward."

A 25 関係代名詞=形容詞節=M(修飾語)

1. 種類	<主格>	<所有格>	<目的格>
(人)	who	whose	whom
(物)	which	whose (of which)	which
(特別)	that	×	that

2. 用法

- (1) 制限的用法 (～するところの～) コンマがない
 (2) 非制限的用法 (～する。／そして～／しかし／というのは) ... コンマがある

■例文

1. 種類

- He has a friend who lives in Chicago. (彼にはシカゴに住んでいる友人がいる)
 That is the lady whose purse has been stolen. (あの方は財布を盗まれた婦人です)
 This is a lady whom I met yesterday. (この方は私が昨日会った婦人です)
 I want a book which is easy and interesting. (私はやさしくて面白い本がほしい)
 He is the only one that noticed it. (彼はそれに気づいたただ一人の人である)

2. 用法

- (1) 制限的用法(上記の例文の英文は、すべて制限的用法であり、また、非制限的用法よりも、多く使われます)

Mr. A is the man who taught me English. (A氏は私に英語を教えてくれた人です)

- (2) 非制限的用法

I lived with Mr.A, who taught me English.

(= and he) (私はA氏と住んでいたが、彼は私に英語を教えてくれた)

I tried to solve the problem, which I found impossible.

(= and I found it impossible)

(私はその問題を解こうとしたが、それは不可能であることがわかった)

■解説

関係代名詞を見つけたら、形容詞節(M)だから、まず()に入れて考えてください。そうすれば、主語(S)や動詞(V)が浮き彫りになり、文全体の構造をつかむことが容易になるでしょう。また、関係代名詞の前に、コンマがあるかどうかを確かめてから、訳すことが大切です。

■練習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. He said nothing, which made her more angry.
2. She may well be proud of her son, who is very bright.
3. Conversation is like a stream which is continually changing its course. Discussion, on the other hand, can be compared to a fountain which always plays in the same pond.

A 26 関係代名詞の省略 (目的格)

1. 動詞の目的になる場合(代表的)
2. 前置詞の目的になる場合
3. **There is** …, **It is** … で始まる文

■例 文

The passport (which) I lost a few days ago has been found.

(2, 3日前に私がなくしたパスポートが見つかった)

That is the book (which) I spoke of yesterday. (あれは私が昨日話した本です)

I remember the girl (whom) I met ten years ago.

(私は10年前に会った女の子を覚えている)

■解 説

関係代名詞の省略は、主として目的格のときに起こるので、「関係代名詞の省略は目的格」と暗記してください。そして、その見分け方は、名詞(先行詞)の直後に、S+Vの形がきていたら、まず関係代名詞の目的格の省略と考えるとよいでしょう。このS+Vの場合、Vは他動詞(目的語を必要とする動詞)であることに留意してください。

上記例文の()内を小指で押さえて、関係代名詞の省略の形を感じとってください。

○前置詞 + 関係代名詞

Who is the lady with whom he is talking? (彼が話している婦人は誰ですか)

前置詞+関係代名詞という形がきても、当惑する必要はありません。上記の例で言えば、with whom をまとめて、「with whom 以下であるところの」ととらえて訳せばよいのです。ただ、with は talk with と連結しているのに留意ください。

○関係代名詞 that(好まれて使われる場合)

1. 先行詞=人+人以外

The boy and his cat that I saw were very cute.

(私の見た少年と彼の猫は、とてもかわいい)

2. 先行詞に、形容詞の最上級、序数詞、the only, the very, the same, every, any, all, no 等を伴う場合

He is the only friend that I have in Italy.

3. 疑問詞 who(which)の後

Who that knows him doesn't love him?

(彼を知っている人で、彼を愛さない人がいるだろうか)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. Wrestling is the sport of which he is particularly fond.
2. This is the smallest TV set that has been made in Japan.
3. The first great lesson a young man should learn is that he knows nothing, and that the earlier and the more thoroughly this lesson is learned, the better it will be for his peace of mind.

A 27 注意すべき関係代名詞

1. **what** = **the things which** (～すること, ～するもの)=名詞
2. **but** = **that ~ not** (～しないところの～)先行詞の前に必ず否定語
3. **as** = **a. such ~ as ~** (～するような～)
 b. the same ~ as ~ (～するのと同じような～)

■例 文

He sometimes misunderstands what I say. (彼は時々私の言うことをとり違える)

I will send what was promised. (お約束のものをお送りします)

What he is is quite different from what he used to be.

(現在の彼は過去の彼とは全く違います)

There are few children but like to play. (遊ぶのが好きでない子供はほとんどいない)

There is no rule but has some exceptions. (例外のない規則はない)

You had better read such books as will interest you.

(あなたに興味を与えるような本を読んだ方がよい)

I have the same watch as you have.

(私は君が持っているのと同じ種類の時計を持っている)

比較 I have found the same watch that I lost. (私がなくした時計が見つかった)

■解 説

関係代名詞 **what** は、その中に先行詞が含まれる独特のもので、「～すること、～するもの」と訳します。また、関係代名詞 **what** は、形の上で、疑問代名詞 **what** と区別ができないから、主節の表す内容との関係で、判断しなければなりません。

疑問代名詞 **what** の場合は、主節の動詞が **ask, tell** であることが多いです。

比較 : He will do what I have to do today.

関係代名詞 (今日私がしなければならないことを彼はやってくれるだろう)

I will ask him what I have to do today. (what にアクセント)

疑問代名詞 (今日私が何をしなければならないかを彼に尋ねよう)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. This is such an easy book as anyone is able to read.
2. Meet me tomorrow at the same place as you met me yesterday.
3. What is worth doing at all is worth doing well. 《諺》
4. There is no act, however trivial, but has its train of consequences, as there is no hair so small but casts its shadow.

A 28 関係副詞=形容詞節=M(修飾語)

1. **when** ……「時」を表す 先行詞の省略に注意(1.~4.)
2. **where** ……「場所」を表す 訳「~するところの~」
3. **why** ……「理由」を表す
4. **how** ……「方法」を表す 〈先行詞 **the way** がない〉

■例 文

- I remember the day when I first met her. (私は彼女に初めて会った日を覚えている)
This is the house where I was born. (これは私が生まれた家です)
This is the reason why I can agree with you. (これが君の意見に同意できる理由だ)
This is (the way) how I spend my holidays. (このようにして私は休日を過ごします)

■解 説

○先行詞の省略

先行詞 reason はしばしば省略されます。また、関係副詞も、制限的用法の場合、省略することができます。(例外: where)

Tell me the time (when) you'll leave here. (君がここを出発する時間を教えてくれ)
[次の決まり文句に注意]

That is why you can speak English very well.

(そういう訳で、あなたは英語がとても上手に話せるのですね)

This is how I could solve the problem. (このようにして、私はこの問題を解決できた)

○関係副詞の二用法

1. 制限的用法(コンマがない)

I know the time when she will return. (私は彼女が帰る時間を知っている)

2. 非制限的用法(コンマがある)

I was about to depart, when (= and then) the bell rang.

(注意), when = そしてその時

(私はまさに出発しようとしていた。するとその時, ベルがなった)

We visited Nara, where (= and there) we stayed for a week.

(注意), where = そしてそこで

(私達は奈良を訪ねた。そしてそこで, 私達は1週間滞在しました)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. The exact time the artificial satellite will be sent up has been announced.
2. I happened to be in the park this morning, when I saw you walking along in front of me.
3. From where he sat, he could perhaps throw a stone to where she was sitting.

A 29 関係形容詞

関係代名詞と形容詞の働きを兼ね、名詞(N)の前におかれる

- | | | | |
|---------------------|---|---|-------------------------|
| 1. which | + | N | (そして、その N ~) [非制限的用法のみ] |
| 2. what | + | N | (~するところのすべての N) |
| 3. whichever | + | N | (~するどの N ~) |
| 4. whatever | + | N | (どんな N を(が)~しようとも) |

■例 文

He was told to go for a change of air, which advice he followed.

(彼は転地するよう言われた。そこで、彼はそのアドバイスに従った)

I will give you what money I have with me.

(私が持ち合わせているすべてのお金をあなたにあげましょう)

= I will give you all the money that I have with me.

He taught me what little knowledge he had acquired.

(彼は少ないながらも習得したすべての知識を私に教えてくれた)

Please take whichever course you like.

(あなたが好むどのコースでも取ってください)

Whatever reason he may give, you don't have to pay attention to it.

(彼がどのような理由を挙げようと、あなたはそれに注意を払う必要がない)

We can rely on whatever word he says. (我々は彼の言う言葉なら何でも信頼できる)

■解 説

かなり程度の高い文法事項であり、使用頻度もそう多くありません。しかし、このような英文に遭遇しても当惑することなく、関係代名詞の一種の応用と考えて、この構文に対処してください。上記の例文で、関係形容詞がどのように使われているか確かめてください。

もし理解ができないときは、後回しにして、他の項目に進んでください。(意欲のある方は他の文法書でチェックしましょう)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. You may be engaged in whatever occupation you like.
2. The captain was interrogated as to the number of men in the ship, officers, etc., to which questions he answered all truthfully.
3. Recent studies tend to show that TV stifles creative imagination. Some teachers feel that TV has taken away the child's ability to form mental pictures in his own mind, resulting in children who cannot understand a simple story without visual illustrations. Too much TV too early tends to cause children to withdraw from real life experiences.

A 30 話法 (1)

直接話法 He said to me, "You are rich now."

間接話法 He told me that I was rich then.

① ② ③ ④ ⑤

[五つのポイント]

- ① said to の意味 疑問文→ asked, 命令文→ told 等
- ② 何文であるか 疑問文で疑問詞のない文→ if, 命令文→ to 不定詞等
- ③ 代名詞の吟味 He(ヒーさん)が me(ミーさん)に向かって「あなた」(you)とは誰かと考える
- ④ 時制の一致 「時制の一致」の原則による
- ⑤ 副詞の吟味 here→there, yesterday→the day before 等

■例文

1. 平叙文 that (接続詞)
 (直) He said to me, "Health is above wealth." (彼は私に「健康は富に優る」と言った)
 (間) He told me that health is above wealth. [時制の一致の例外]
2. 命令文 to 不定詞(または not to 不定詞)
 (直) He said to us, "Get up at once." (彼は私達に「直ちに起きなさい」と言った)
 (間) He told us to get up at once. (彼は私達に直ちに起きるように命じた)
 (直) She said to me, "Don't give up." (彼女は私に「あきらめるな」と言った)
 (間) She told me not to give up. (彼女は私にあきらめないように言った)
 He said to her, "Please open the door." = He asked her to open the door.

■解説

人が言ったことを他人に伝える表現を話法といいます。そして人の言葉を引用符(“”)を用いて、そのまま伝えるのを直接話法、人の言葉を話し手の言葉に直して伝えるのを間接話法といいます。

話法では、直接話法と間接話法の転換が重要です。そこで、直接話法から間接話法に変える場合の五つのポイントを上記の枠内の例で確認してください。

■練習

A. 次の英文の話法を変えなさい。

1. He said to me, "I am very glad to meet you here today."
2. Father said to her, "Don't neglect your studies."
3. He told me that he didn't know where she had gone.

B. 次の英文を日本語に訳しなさい。

He said to me, "The important thing in the Olympic Games is not winning, but taking part; the essential thing is not conquering, but fighting well."

A 31 語法 (2)

[特徴]

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 1. 平叙文 | that (接続詞) |
| 2. 命令文 | to 不定詞 (not to 不定詞) |
| 3. 疑問詞のある疑問文 | 間接疑問の形 (☞B11) |
| 4. 疑問詞のない疑問文 | if (whether) |
| 5. 感嘆文 | said → cried |
| 6. 祈願文 | said → prayed |

■例文

3. 疑問詞のある疑問文 … 間接疑問の形
 (直) She said to me, "What did you do yesterday?"
 (彼女は私に「あなたはきのう何をしましたか」と言った)
 (間) She asked me what I had done the day before.
4. 疑問詞のない疑問文 … if(whether)
 (直) They said to her, "Can you come here tomorrow?"
 (彼らは彼女に「あなたは明日ここに来れますか」と言った)
 (間) They asked her if she could come there the next day.
5. 感嘆文 … said → cried [感嘆文の間接語法はほとんど使われない]
 (直) He said to her, "What a pretty girl you are!"
 (彼は彼女に「あなたは何時きれいな少女でしょう」と言った)
 (間) He cried to her what a pretty girl she was.
6. 祈願文 … said → prayed
 (直) He said, "God bless my daughter."
 (彼は「神が私の娘を祝福しますように」と言った)
 (間) He prayed to God that he might bless his daughter.
- 〈注意〉 He said to me, "Let's go home." → He proposed to me that we should go home.

■解説

文の特徴を覚えて、A30の五つのポイントに従って、語法を変える練習をしてください。

■練習

- A. 次の英文の語法を変えなさい。
1. He said to me, "How can I get to your school?"
 2. He asked her if she would marry him.
 3. She cried out what a beautiful sight it was.
 4. He said to me, "May you be successful!"
 5. A friend of mine suggested that we should camp there.

A 32 仮定法過去

1. If + 主語 + 過去形, 主語 +

would
should
could
might

 + 原形

2. 現在の事実に反する仮定(形は過去形, 内容は現在)

3. 「もし(今)~するならば, ~するであろう」

■例 文

If I were a bird, I could fly to you. (もし私が鳥なら, 貴方のもとに飛んで行けるのだが)
= As I am not a bird, I can not fly to you.

(実際は鳥でないので, 私はあなたのもとに飛んで行けない)

He would go if he could get a visa. (彼はビザを取ることができたら, 行くだろうに)

If I had a lot of money, I would buy a new car.

(もし私が沢山の金があるなら, 私は新車を買うのだが)

= As I have not a lot of money, I cannot buy a new car.

(沢山の金をもっていないので, 新車を買うことができない)

I wish I could speak Chinese. (私が中国語を話せたらなあ)

= I am sorry that I cannot speak Chinese. (中国語を話せなくて残念です)

She speaks English as if she were an American.

(彼女はまるでアメリカ人であるかのように英語を話す)

■解 説

仮定法過去は, 仮定法の中で, もっとも基本的なものであり, もっともよく使われるので, 十分理解しておく必要があります。注意すべきことは, 仮定法過去は, 形を過去形にすることによって, 現在の事実に反することを表現しているのであって, 内容は, 決して過去ではなく, 現在のことをいっているのです。

例文に見られるように, I wish ~ (～ならなあ) 現在の事実に反する願望や, as if ~ (まるで～のように) 等にも留意してください。

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. He is very kind, but I wish he were more prudent.
2. If he lived in this village, he might know the secret.
3. If it were not for water, we could not live long.
4. Jack talks as though he were Japanese.
5. "Please" is a very little word, but it makes a great many requests sound pleasant, that without it would sound harsh.

A 33 仮定法過去完了

1. If + 主語 + had + 過去分詞, 主語 +

would
should
could
might

 + have + 過去分詞
2. 過去の事実に対する仮定(形は過去完了, 内容は過去)
3. 「もし(あの時)~していたら, ~したであろうに」

■例 文

If I had been there, I would have been killed.

(もし私がそこにいたら, 殺されていたであろう)

= As I was not there, I was not killed.

If you had left home at six, you could have caught the train.

(もし家を6時に出発していたら, その列車に乗れたであろうに)

= As you did not leave home at six, you could not catch the train.

I wish I had been more careful at that time. (私が, あの時もっと注意深かったらなあ)

= I am sorry that I was not more careful at that time.

She looks as if she had been ill for a month.

(彼女はまるで1か月前から病気であったかのような顔をしている)

■解 説

仮定法過去完了は, 形は過去完了形を使って, 「過去」の事実に対する仮定を表現しています。仮定法過去完了形を含む英文の解釈に当たっては, 「もし(あの時)~していたら, ~したであろうに」のように, (あの時)を入れて訳してみると訳がよりの確になるでしょう。

1. If it had not been for = Had it not been for = But for = Without = 「もし~がなかったならば」, や 2. 主語(S)に条件(if)がかくされている場合「Sなら, ~」に注意して訳しましょう。ここまで理解してくると, 仮定法の expert になったような気になりますね。

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. If you had been there, you would have been seriously injured.
2. If she had obeyed his directions, she would not have died.
3. But for your help, I could not have been successful.
4. Johnson would not have laughed at the boy at that time.
5. You may have heard grown-ups say, "I wish I had learned that in school."
6. I should have taken the poet, had I not known what he was, for a wise country farmer.

A 34 仮定法現在

1. If + 主語 + 原形 , 主語 +

will
shall
can
may

 + 原形
2. 現在または未来についての単なる想像上の仮定
3. 「もし～するなら、～するだろう」

■例 文

1. きわめて文語的な法律文等の中でしか、現在使われていない。

If it be rainy tomorrow, I will stay at home.

(もし明日雨なら、私は家にいよう……明日雨であるかどうかわからぬ状態で)

If the article be good, buy it. (もしその品物が良いなら、それを買いなさい)

If any person be found guilty, he shall have the right of appeal.

[注意] he shall have = he will be given

(誰でも有罪と判決された場合、上告権が与えられる)

2. 主としてアメリカ英語で、要求、提案、必要等を表す that 節の中で使われる。

I demanded that he (should) be dismissed. (私は彼が解雇されるよう要求した)

He suggested that she (should) go at once. (彼は彼女が直ちに行くよう提案した)

It is necessary that he (should) come at six. (彼が 6 時に来る必要があります)

■解 説

例文 1 のように、古くは、if 節の中に常に動詞の原形を用いたが、今日の英語では、直接法現在(普通の条件文)を用いるので、仮定法現在そのものは、実際にはあまり使用されません。

仮定法現在は、むしろ、例文 2 のように、要求、提案、必要等を表す that 節の中で、動詞の原形が用いられると記憶すべきでしょう。

■練 習

- A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. If he be(is) ill in bed, he may not come and see us.

2. The pilot ordered that they fasten their safety belt.

3. God bless you!

4. Not long ago, I had a chance to watch a surgeon perform a delicate brain operation. A slip of his hand would have meant instant death for the patient. What impressed me about the doctor was not his skill but his amazing calmness.

A 35 仮定法未来

- | | | |
|--|---|---|
| <p>1. If + 主語 + should + 原形, 主語 +</p> | <p>would (will)
should (should)
could (can)
might (may)</p> | <p>+ 原形

(左の助動詞の過去形の方が不確かさが大きい)</p> |
|--|---|---|
2. あまりありそうにない未来に対する仮定
3. 「万一～したら, ～するであろう」

■例 文

If you should change your mind, let me know.

(万一お気持ちが変わったら, 私にお知らせください)

If I should fail in the examination, I will try again.

(万一試験に失敗しても, 私はもう一度やってみるつもりです)

If you should see her in Tokyo, give her my best regards.

(万一東京で彼女に会ったら, 彼女によろしく言ってください)

If he should hear of it, he would be surprised.

(もし万一彼がそのことを聞いたら, 驚くであろう)

■解 説

仮定法未来は, あまりありそうにないことを仮定するときに使われる用法です。「If～should の構文」として覚えましょう。

次に, If S were to の文型は, 全く起こらないと思われる事柄についての仮定をする場合に, 使われます。

If the sun were to rise in the west, I would not betray you.

(たとえ太陽が西から昇っても, 私は君を裏切らないだろう)

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. If he were to die now, what would become of his family?
2. If it should rain tomorrow, we would have to wait until the next fine day.
3. If we should miss the train, we would have to wait two hours for the next train.
4. If you were to make a space trip, what planet would you like to visit?
5. Dr. Bossard has spent 40 years studying, as it were, “neglected areas” of family life, with special emphasis on the problems of children.

A 36 部分否定

1. 否定語 + (all, every, always, both, necessarily 等)
2. 「～とは限らない」

■例 文

肯定文, 部分否定, 全部否定を比較しながら, 理解しよう。

All the boys played baseball.	(すべての少年が野球をした)	肯定文
<u>Not all</u> the boys played baseball.	(すべての少年が野球をしたとは限らない)	部分否定
No boys played baseball.	(どの少年も野球をしなかった)	全部否定
Every one is great.	(誰もが偉大だ)	肯定文
<u>Every</u> man is <u>not</u> great.	(誰もが偉大とは限らない)	部分否定
No one is great.	(誰も偉大でない)	全部否定
I am always busy on Sundays.	(私は日曜日はいつも忙しい)	肯定文
I am <u>not</u> <u>always</u> busy on Sundays.	(私は日曜日は必ずしも忙しくない)	部分否定
I am never busy on Sundays.	(私は日曜日は決して忙しくない)	全部否定
He knows both English and Chinese.	(彼は英語と中国語の両方知っている)	肯定文
He <u>doesn't</u> know <u>both</u> English and Chinese.	(彼は英語と中国語の両方を知っているとは限らない)	部分否定
He <u>doesn't</u> know either English or Chinese.	(彼は英語と中国語のどちらも知らない)	全部否定
The rich are always happy.	(金持ちは常に幸福である)	肯定文
The rich are <u>not</u> <u>necessarily</u> (always) happy.	(金持ちは必ずしも幸福とは限らない)	部分否定
The rich are never happy.	(金持ちは決して幸福でない)	全部否定

■解 説

部分否定と全部否定の関係を理解しながら, それを利用して, 自分で英文を作ってみてはいかがですか。上記の他に, quite(全く), completely(完全に), exactly(正確に)等があるから, 注意してください。

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. The strongest men do not necessarily live the longest.
2. All are not true friends that speak us fair.
3. He is not quite the right man for his place.
4. Many intelligent Japanese are able to read English books on economics, literature, or natural science, but they are not always good speakers of English.

A 37 注意すべき否定語

1. **little, few, hardly, scarcely** (ほとんど～ない)
2. **seldom, rarely** (めったに～ない)

■例文

- I gained little advantage from it. (私はそれからほとんど利益を得なかった)
 比較: I gained a little advantage from it. (私はそれから利益を少し得た)
 He has few chances of success. (彼は成功の機会がほとんどない)
 比較: He has a few chances of success. (彼は成功の機会が少しある)
 I could hardly understand her. (彼女の言うことをほとんど理解できなかった)
 We can scarcely believe such a story. (私達はこのような話をほとんど信じられない)
 Barking dogs seldom bite. (吠える犬はめったに噛まない)
 She rarely breaks her word. (彼女はめったに約束を破らない)
 He is the last person to tell a lie. (彼は決して嘘をつく人ではない) (☞ C27)

■解説

「注意すべき否定語」は、準否定語ともいわれるように、一見、否定語に見えないので、うっかり見逃しがちです。さらに悪いことには否定語であるのに、うっかり肯定に訳してしまうと、全く反対の意味になってしまいます。その意味で、出題率も高いわけです。

そこで、注意すべき否定語を「ほとんどない」グループと「めったに～ない」グループに分けて、それぞれの単語の使い方に慣れるまで繰り返し練習しておく方がよいでしょう。

○文頭に置かれると、語順転倒が生じることに注意

Little did I dream of meeting here.

(ここであなたに会おうとは夢にも思わなかった)

Rarely have I seen such a beautiful sunset.

(こんな美しい日没はめったに見たことはありません)

■練習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. We could scarcely live in a single day without the help of others.
2. It is seldom that a man lives to be a hundred years old.
3. You can hardly expect me to assist you.
4. Living as I do, so remote from town, I rarely have visitors.
5. Little did people of the past think that man could circle the earth in an artificial satellite in ninety minutes.
6. The selection of a place of residence, even though we only intend to pass a few short years in it, is from an educational point of view an important matter.

A 38 比較（形容詞と副詞）

1. 原級	small	beautiful
2. 比較級	smaller	more beautiful
3. 最上級	smallest	the most beautiful

■例 文

He is as kind as his sister. (彼は彼の姉と同じほど親切である)

They completed the construction carefully. (彼らはその建設を注意深く完成した)

I am younger than you by two years. (私はあなたより二つ若い)

The lady dressed up more beautifully than her sister.

(その婦人は妹よりも美しく着飾っていた)

Osaka is the second largest city in Japan. (大阪は日本で二番目に大きな都市です)

Mr. Hayashi appeared here earliest of all. (林氏はみんなの中で一番早くここに来た)

○原級，比較級，最上級の相互転換

1. 原級，比較級を用いて，最上級を表現する。

原 級 No other boy in his class is as tall as he.

(クラスのどの少年も彼ほど背が高くない)

比較級 He is taller than any other boy in his class.

(彼はクラスのどの少年よりも背が高い)

最上級 He is the tallest boy in his class. (彼はクラスで最も背が高い)

2. 否定語を用いて，最上級を表現する。

原 級 Nothing is as important as time. (時間ほど大切なものはない)

比較級 Nothing is more important than time. (時間ほど大切なものはない)

最上級 Time is the most important of all. (時間はすべての中で最も大切である)

■解 説

形容詞及び副詞には，例文のような比較変化(原級，比較級，最上級)がありますが，その形や使い方を理解しましょう。中でも，比較級には多様な重要な項目があります。例えば

1. 原級，比較級，最上級，2. 比較構文，3. 慣用表現等です。それで基本からじっくり腰を降ろして「比較」を研究する価値があります。

■練 習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. Generally speaking, nothing is more necessary for the health than sufficient sleep.

2. It is scarcely an exaggeration to say that at present mankind as a species is insane and that nothing is so urgent as the recovery of mental self-control.

A 39 原級

原級を用いた注意すべき表現

■例文

1. He is as tall as she. (彼は彼女と同じ背の高さである)[~と同じくらいに]
2. He is not as (so) young as she. (彼は彼女ほど若くない) [~ほど~でない]
3. He has three times as many books as she has. [~の3倍]
(彼は彼女の3倍の本を持っている)
4. Read as many books as possible (you can). [できるだけ~]
(できるだけ多くの本を読みなさい)
5. He is as happy as happy can be. [この上なく~]
(彼はこの上なく幸福である)
6. He is as rich as any man in this city. [だれにも劣らず~]
(彼はこの町の誰よりも金持ちである)
7. He is as brave a man as ever breathed. [これまで~しただれにも劣らず]
(彼はだれにも劣らず勇敢である)
8. He is as poor as ever. (彼は相変わらず貧乏である) [相変わらず~]
9. He is not so much a poet as a scholar. [~というよりは、むしろ]
(彼は詩人と言うよりはむしろ学者である)
10. He cannot so much as write his own name. [~さえ=even]
(彼は自分自身の名前さえ書けない)
11. He is as good as dead. (彼は死んだも同然だ) [~も同然だ]
12. He read six books in as many months. (彼は6か月で6冊の本を読んだ) [同数の~]

■解説

原級の慣用表現には、例文のように数多くあるので、その用法を一つ一つその用法を理解して暗記してください。例文は簡潔で覚えやすいものになっています。教科書や問題集で、同じ構文に出食わしたら、色鉛筆でチェックして、確認しながら覚えましょう。

■練習

A. 次の英文を日本語に訳しなさい。

1. She did not so much as say good-bye to us.
2. The sitting room is as large as the study, but the kitchen is not as large as the sitting room.
3. A man is as old as he feels, and a woman as old as she looks.
4. I have learned that success is to be measured not so much by the position that one has reached in life as by the obstacles which he has overcome while trying to succeed.

「1時間半は麻酔はとれないな。まだはっきり目が覚めないのは当たり前だよ。けれど一晩ぐっすり眠れば気分が良くなるさ。それから、ライオンズさんに睡眠薬を渡しておいたからね。じゃ失礼します。ライオンズさんが後の面倒は見てくれます」

「私は7時に帰ります」とライオンズさんは言った。「女友達と一緒にショーを見にいきます。でもハルシーさんがちゃんといてくれます。彼女が夜勤です。欲しいものは何でも彼女が持ってきてくれます。先生、患者さんにどんな食べ物をあげたらよいですか」

「何もあげてはいけない。私が明日ここに来るまではだめだ。何も食べなくてもよくなるであろう。安静にしているように注意しなさい。患者さんに話させてもいけないし、話しかけてもいけない。つまり、話さないですむなら」

〈p. 117〉

- A 1. 電話は、日常生活にあまりにも大きな役割を占めているので、電話なしで済ますことがどんなに困難かを想像して、はじめて私達が電話にどんなに多く依存しているかがわかる。
2. イタリアの地形は鍵に例えられている。つまり、実際、換言すれば、多くの作家が指摘しているように、イタリアはヨーロッパの鍵である。

〈p. 118〉

- A 1. 彼はまだ10代になったばかりだから、その事実を知らないのは当然だ。seeing that = since(～だから)
2. 警察官が、けがをするのを防止したり、交通が安全にできるだけ早く進行するのを確かめるために、そこに立っていることを私達は忘れがちである。

〈p. 119〉

- A 1. ガンジーの本によれば、ガンジーは学校時代に他の少年達と友達になることが容易でなかったと彼は言っている。
2. 毎年何千もの人々が冬のスポーツに参加したり、山頂に登ったりするために、スイスに行く。

〈p. 120〉

- A 1. あなたは絵画を研究するためにパリに行ったことがありますか。
2. 彼はジョンに会うことを楽しみにしていたが、二人が会ったとき、彼の目は涙で一杯であった。なぜなら、彼はジョンの手が厳しい労働のために荒れていることがわかったからである。
3. 大雨のため野菜の値段が上がった。

〈p. 121〉

- A 1. 天候が最近変わりやすいので、いつ雨が降り出すか知ることができない。
2. 盲目の人でさえ、砂利の海岸に長い間立てば、必ず海がせわしく波を打っているのがわかる。
3. ある晩遅く、家に帰るやいなや、驚いたことには、見知らぬ人が私の家の中を覗いているのがわかった。

索引(重要語句)

〈A〉

a few 39, 104, 110
a friend of (mine) 53
a great many 34
a little 39
a lot of 63
a man of (learning) 101
according as 52
according to 50
across 18
after 9, 11
against 20
ago 21, 79
agree to 120
agree with 30, 117
all the better for 90
all the more ~ because 42
all the more ~ for 42
always 12, 13, 27, 38, 77
among 49, 57
and that 28, 47, 74
anyone 6
anything but 58, 103
anywhere 18
arrive at 18, 24
as 9, 12, 24, 29, 59
as a matter of fact 8
as a result (of) 46
as ~ as 40, 41, 66, 67, 118
as ~ as ~ can 48
as ~ as possible 59
as far as 51, 59, 99
as for 59, 120
as good as 41
as if 34, 35, 51, 59, 96

as is often the case 106
as it is 59, 98
as it were 37, 59, 70
as long as 99
as many 41
as much as 19, 42
形容詞+as ~, S+V 87
as ~, so ~ 59, 98
as soon as 51, 59, 102, 121
as though 34
as to 31, 59, 120
as well as 6, 59, 69, 87
ask (a question) of 117
ask ~ for 24
ask ~ if 6, 33
ask ~ to 47
at a loss 119
at all 29
at first 25
at home 36, 93
at last 8, 73, 97
at least 42
at most 42
at once 17, 32, 36, 100
at present 40, 46, 95, 111
at that time 35
at the risk of 120
at work 121
away from 55

〈B〉

be 4, 16, 49
be + 過去分詞 13, 17, 21, 28
be able to 29, 38, 51, 84, 88
be about to 30, 120
be accustomed to 56
be acquainted with 61
be afraid of 25, 56, 118
be anxious for 118
be anxious to 118

be apt to 118
 be astonished 61
 be aware of 93, 118
 be better off 113
 be brought up 94
 be busy with 84
 be capable of 118
 be careful of 118
 be compared to 26
 be crowded with 49
 be different from 118
 be disappointed 61
 be drenched to the skin 61
 be engaged in 31, 118
 be equal to 118
 be familiar with 118
 be famous for 118
 be filled with 120
 be fond of 28, 56, 89, 118
 be full of 4, 118
 be glad to 32
 be going to 6, 113
 be gone 47
 be good for the health 19
 be grateful to ~ for 118
 be ignorant of 118
 be ill in bed 36
 be in danger of 26
 be in good order 20
 be in the habit of 121
 be incapable of 118
 be inferior to 42
 be ~ ing 10, 12, 28, 30, 50
 be innocent of 21
 be interested in 25, 99
 be liable to 118
 be looking forward to 56
 be made of 61
 be obliged to 118
 be on the point of 121

be out of order 18
 be over 100
 be pleased with 61, 89
 be proud of 26, 27, 56, 118
 be responsible for 79
 be satisfied with 61
 be short of 106
 be startled 64
 be superior to 42
 be sure of 25
 be sure to 89
 be surprised (to) 47, 61
 be taken ill 61
 be thankful to ~ for 118
 be tired of 118
 be tired with 118
 be + to不定詞 22, 37
 be + to be + 過去分詞 22
 be unable to 92
 be willing to 110
 be worth ~ing 29, 121
 be worthy of 118
 because 24, 63, 101, 120
 because of 50, 81, 101, 120
 become of 37, 62
 before 33, 50, 51, 56, 57
 before long 63
 begin to 72, 97
 believe in 99
 beyond 60, 103, 119
 bit by bit 20
 both A and B 38
 break into pieces 65
 but 20, 29, 38, 48, 58
 but for 35, 58, 120
 by 23, 41, 47, 49, 50
 by (air) 25, 51
 by chance 90
 by far 66
 by means of 120

by no means 70, 119
 by oneself 84, 109
 by the end of 109
 by the time 52
 by the way 109
 by way of 120

〈C〉

call at 9, 117
 call on 4, 89, 117
 cannot but 58
 cannot help ~ing 58, 88, 121
 cannot ~ too 50
 can't be 18
 carry out 95
 catch at 23
 catch cold 95
 catch up with 119
 certainly ~ but 91
 come across 18
 come back 11, 13, 14, 23, 51
 come home 52
 come in 47
 come into contact with 93
 come on 24
 come to 14, 23
 compare ~ to 117
 compare ~ with 117
 Considering 24
 consist in 117
 consist of 117
 crawl up 20

〈D〉

deal in 117
 deal with 9, 117
 demand ~ (should) 36
 depend upon 93, 117
 did (write) 強意 79
 die of 67

difference between A and B 48
 different from 29
 directly 52, 102
 do 7, 17, 39, 46
 do evil 48
 do good 48
 do well 81
 do without 117
 Do you know + 疑問詞 55
 疑問詞 + do you think 55
 doctor's 47
 Don't let (him) 113
 dress up 40
 drop in 106
 during 85

〈E〉

either ~ or 38
 enable ~ to 54
 enough to 48
 enter into 117
 etc. 31
 even 106, 121
 even if 51, 81, 110
 even though 39
 ever 80
 everyone 22
 everything 7, 9, 52, 56
 every time (接統詞) 9, 11, 52, 93
 except 110

〈F〉

fail in 65, 117
 fail to 91, 117
 fall asleep 24, 25
 father-in-law 50
 far from 56, 58
 feel at home 97
 few 19, 29, 39, 48
 find faults with 53

find (him) ~ing	89
finish ~ing	13
fly to	34
, for	15
for a long time	60
for a while	56
for ever	47
for fear (that) ~ should	52, 95
for oneself	73
for some time	60
for the first time	68
for the purpose of	120
for the sake of	110, 120
freedom from	22
from the ~ point of view	39
from where	30

〈G〉

generally speaking	40
get along with	119
get home	102
get married with	78
get + O + 過去分詞	85
get + O + to	86
get ready	94
get there	19
get to	92
get up	32, 94
get well	92, 106
give up	19, 22, 32, 37
glance at	54
go abroad	93
go-between	59
go for a change	31
go for a walk	51
go home	33
go on	59
go on a picnic	37
go out	59
go shopping	52

go up	94
grow to	78

〈H〉

had + 過去分詞	33, 35, 60, 97
had been ~ing	12, 14
had better	20
Had it not been for	62
had + O + 過去分詞	85
had + O + 原形不定詞	20, 86
hardly	39
hardly ~ but	104
hardly ~ when (before)	102
hardly ~ without	104
have + 過去分詞	13, 14, 41, 53, 74
have been + 過去分詞	46
have been ~ing	12, 13
have been to	13, 120
have gone to	13
have + O + 原形不定詞	20, 86
have + O + 過去分詞	5, 23, 85
how	55, 80, 113
How about ~ing?	121
How long	60
however	70
However (hard) ~,	88, 89

〈I〉

I hear	11
I wish	34
I wonder if	55
if	6, 7, 36
If it had not been for	35
If it were not for	34
If ~ should	37
in a year or so	82
in accordance with	10
in all directions	55
in case	51
in case of	120

- in case ~ should 95
 in charge of 71
 in comparison with 20
 In fact ~ but 91
 in fashion 58, 96
 in favor of 120
 in front of 30, 56, 120
 in general 96
 in good health 8, 11
 in honor of 120
 in ~ing 8, 14, 22, 50, 99
 in itself 96
 in mind 96
 in order not to 95
 in order that ~ may 94
 in order to 19, 94
 in relation to 120
 in school 36
 in service 67
 in spite of 120
 in that 52
 in the habit of 121
 in the midst of 120
 in the world 119
 in the wrong 87, 96
 in this way 119
 in those days 84
 in time 56
 in which 72, 99
 Indeed ~ but 91
 inquire after 117
 inquire of 117
 insist on 25
 instead of 120
 into 65, 103, 121
 It ~ 疑問詞 80
 It is (no use) ~ing 73, 77
 It is ~ of ~ to 77
 It is said 21
 It ~ that 10, 15, 40, 78, 83
- It ~ thatの強調構文 5, 79
 It ~ that ~ should 81
 It ~ to 4, 7, 11, 49, 64
 It ~ whether (if) 78
- (J)
- just 18, 113
- (K)
- key word 11
 keep (still) 105
- (L)
- lack in 91
 lest ~ should 94, 95
 let (me) 16, 20, 28
 Let's 16
 like (前置詞) 3, 27, 70, 77
 listen to 111
 little 20, 25, 39
 live in 8, 27, 60
 look after 3
 look at 90, 104
 look back on 119
 look down upon 119
 look forward to 119
 look ~ up 11
 look up to 119
- (M)
- 命令文 + and 16
 命令文 + or 16
 make a mistake 80
 make a sensation 57
 make across 14
 make friends with 119
 make fun of 106
 make haste 90
 make it one's habit to 82
 make no difference 78

make one's way to	119
make sure	13
make up for	100, 119
make up one's mind to	68
matter (v.)	78, 80
may	31, 33, 48, 51, 59
may + 完了形	18, 35
may as well	57, 100
may not	3, 36
may well	100
meet with	89
might as well	100
more and more	52
more or less	42, 46
most of	96
much	12, 42, 66, 89
must	48, 52, 61, 83
must + 完了形	18
must not	16, 51, 59

〈N〉

N times as ~ as	41, 67
never ~ but	101
never fail to	104
never to	22
never ~ without	101
no doubt	70
no doubt ~ but	91
no good	77
no less than	42
no matter + 疑問詞	89
no more ~ than	42, 105
no more than	42
no one	16, 55
no (one) but ~	58
no ~ so ~ as	40
No sooner ~ than	72, 102
no use	73, 77
no wonder	81
not ~ all	38

not alone ~ but also	87
not always	7, 38, 88
not because ~ but because	58, 96
not ~ before	97
not ~ both	38
not ~ but	58, 79, 87, 96
not ~ every	38
not less than	42
not long before	97
not more than	42
not ~ necessarily	38, 44
not only ~ but also	58, 87
not ~ quite	38
not ~ so ~ as	41
not so much ~ as	41, 101
not ~ so much as	101
not so much as	101
not that ~ but that	58, 96
not to	16, 22, 95
not ~ until	97
not yet	63
nothing but	58, 90
nothing more than	40
Nothing ~ so ~ as	40

〈O〉

of course ~ but	91
of interest	119
occur to	117
on account of	120
on and on	15
on behalf of	120
on ~ing	50, 56, 121
on one's way (to)	61, 106
on Sundays	38
on the left hand	72
on the other hand	27
on the point of	120, 121
on the right hand	72
on the whole	91

on time 119
 on which 11
 once 49, 52
 one 3, 4, 17, 41, 42
 one ~ the other 112
 only 48
 or 38, 46
 ought to 17
 out of the question 119
 owing to 120

〈P〉

pack with 112
 pay attention to 31
 pay for 81
 plenty of 94
 prevent ~ from 79, 121
 prove to be 90
 pull out 85
 put off 7

〈Q〉

quite 48, 77, 83

〈R〉

rarely 39, 47, 112
 regard as 117
 remain 53
 remember ~ing 121
 remember to 121
 remind of 51, 65, 104
 repent 26
 run down 66
 run over 65

〈S〉

say to 32, 33
 scarcely 39, 40, 72
 scarcely ~ when 102
 scarcely ~ without 104

search for 63
 seem to 6, 21
 seldom 39, 61, 72, 84
 seriously injured 35
 should have + 過去分詞 18
 so as not to 95
 so as to 94
 so ~ as to 90
 so ~ that 72, 84, 92, 117
 so that ~ may 87, 94, 95
 so that ~ may not 95
 so to speak 22, 70
 sooner or later 63
 speak of 28
 speak ill of 119
 speak well of 119
 spend ~ (in) ~ing 14, 37
 stand up 16
 strange to say 22
 succeed in 25
 such ~ as 29, 59
 such ~ that 92
 suffer from 12
 suggest ~ should 33, 36
 superior to 42

〈T〉

take a walk 121
 take away 31
 take (good) care of 17, 113, 121
 take ~ into consideration 103
 take part in 32, 87, 93, 119
 take ~ to 54
 talk to 113
 talk with 8, 19, 28
 tear up 102
 tend to 31, 101
 thanks to 120
 that(關係代名詞) 9, 20, 68
 that(指示代名詞) 35, 57, 67, 73

that(接統詞) 7, 11, 15, 21
 that(前者) 57
 that(同格) 22, 57, 63, 71
 that(副詞)= so 57
 that is 73
 That is why 30
 that ~ may 94
 that ~ not 29, 58
 the + 最上級 38, 40, 60, 66
 The chances are 106
 the day before 33
 The fact is 106
 the last (man) 103
 the moment(接統詞) 52, 102
 the next day 33
 The poor (boy) 65
 The problem is 93
 The probability is 106
 the same ~ as 29, 59
 the same ~ that 29
 the + 比較級, the + 比較級 28, 42, 74, 90
 The trouble is 49, 106
 there is(are) 29, 68, 78, 112
 There is no ~ing 121
 There used to be 49
 They say=It is said 78
 think highly of 119
 think of 83, 104
 this(後者) 57
 This is how 30, 57
 those who 4, 9, 48, 57
 thousands of 46, 119
 , till(=until) 97
 to be brief = in brief 22
 to be frank with you 22
 to be short = in short 22, 103
 to be sure 22, 91
 to begin with 22
 to make matters worse 22
 to tell the truth 22, 103

to the minute 119
 to the point 119
 too ~ to 10, 84, 92, 100
 try to 41, 49
 turn out to 119

〈U, V〉

unless=if ~ not 16, 51
 unlike 96
 used to 29, 53, 84
 very 3, 4, 18
 very much 17
 voice(態) 17

〈W〉

wait for 100
 A is to B what C is to D 106
 what ~ (關係形容詞) 31
 what(關係代名詞) 7, 9, 13, 29, 36
 what(疑問詞) 15, 33, 80
 what (he) is 27, 91
 what (he) was 27, 35
 what ~ is like? 10
 What do you think 55
 what little ~ (關係形容詞) 31
 what to do 24
 what (would) become of 37
 whatever 10, 16, 49, 89
 whatever ~ (關係形容詞) 31, 89
 when(關係副詞) 9, 11, 30
 when(疑問詞) 11, 13, 15, 80
 when(接統詞) 4, 7, 9, 11, 51
 , when(關係副詞) 30
 whenever 52, 89, 104
 where(關係副詞) 9, 19, 30, 52
 , where(關係副詞) 30
 where(疑問詞) 32, 80
 wherever 89
 whether ~ or not 10, 11, 46, 78, 83
 which(關係代名詞) 4, 7, 9, 11, 23

, which ~ (關係形容詞)	31
, which(關係代名詞)	27
whichever ~ (關係形容詞)	31, 89
whichever ~ may	89
while(接續詞)	17, 24, 41, 53
who(關係代名詞)	4, 6, 7, 23, 26
, who(關係代名詞)	27, 47
who(疑問代名詞)	4, 5, 17, 46, 49
who that	28
whoever	89
whom(關係代名詞)	27
whom(疑問詞)	17
whose(關係代名詞)	27
why(關係副詞)	6, 30, 53
will be + 現在分詞	12
will have + 過去分詞	12
will have been + 現在分詞	12
with + 目的語 + 形容詞句	64
with all=for all	120
with reference to	120
with regard to	120
without=but for	34
without ~ing	56, 121
without question	119
worth ~ing	29
would have + 過去分詞	35
Would you mind ~ing?	121
write down	52, 95

〈Y〉

yell at	26
---------------	----

■著者略歴

片桐 哲郎 (かたぎり てつろう)

早稲田大学第一文学部及び専攻科 (英語学, 英文学専攻) 卒業

米国プリンストン大学短期留学 (英語教育)

文部省長期海外教育視察派遣 (欧米) (渉外係長)

福井県立高等学校 (管理職, 教諭)

福井県教育庁社会教育課 (主任, 係長, 主査)

福井県教育研究所 (所長, 副所長, 研究主事(英語科)) 歴任

研究等: “*The Philosophy of Education in J. Dewey*”, “On Communication”,

『LL英語学習』, 『英文解釈のポイント』, 「教育の原点」, 「犯罪とは何か」,

「単位制高校の理念と構想」, 「北前船航路体験事業」, 「教師論」, 『冬の虹』等

現在: 福井工業大学講師 (時事英語)

住所: 〒910-3104 福井市布施田町 19-33

E-mail: tetsu314@sr.incl.ne.jp

すぐわかる 英語のポイント 110

110 KEY POINTS IN LEARNING ENGLISH

2002年 4月 10日 初版発行

2003年 3月 30日 第二刷発行

著者 片桐 哲郎

発行者 池上 淳

発行所 〒229-1124 神奈川県相模原市田名11240

アメニティタワー 5F

学術図書
出版 青山社

TEL 042-763-6440(代) FAX 042-763-6443

URL <http://www.seizansha.co.jp/>

E-mail shuppan@seizansha.co.jp

振替口座 00200-6-28265 I S B N 4-88359-082-8

印刷・製本 青史堂印刷

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

Printed in Japan 2003

ISBN4-88359-082-8 C1082 ¥1571E

定価(本体価格1571+税)

